

第4 「放課後子供教室推進事業」 とは



室内活動風景
吉川市三輪野江小学校放課後子ども教室

「放課後子供教室推進事業」について

1 趣旨

全ての子供を対象として、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用し、安全・安心な子供の活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子供たちに勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供することにより、子供たちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

また、土曜日等において社会人や企業の参画を得て、土曜日ならではの多様なプログラムを子供たちに提供し、教育支援体制の構築を図るとともに、未来を担う子供たちを健やかに育むため、地域の人材を活用し、学習が遅れがちな中学生等に対して学習支援を行う。

2 内容

(1) 指導者研修等の実施（県）

- 推進委員会の設置
 - ・実施方針の検討、指導者研修の企画、事業実施後の検証・評価等を行う
- 指導者研修の実施
 - ・コーディネーター等の資質向上や情報交換・情報共有を図るための研修を実施
- 市町村が実施する「放課後子供教室」「土曜日の教育支援」「中学生学力アップ教室」への支援
 - ・市町村への補助金の交付、各種会議等による情報提供

(2) 「放課後子供教室」「土曜日の教育支援」「中学生学力アップ教室」の実施（市町村）

- 「放課後子供教室」の実施
 - ・教育活動サポーターやボランティアを配置し、スポーツ・文化活動等の様々な体験活動や地域住民との交流活動等の取組を実施
 - ・教育活動推進員を配置し、補習等の学習活動の取組を実施
 - ・放課後児童クラブとの連携促進
- 「土曜日の教育支援」の実施
 - ・土曜教育推進員やボランティアを配置し、体系的・継続的なプログラムを企画・実施
- 「中学生学力アップ教室」の実施
 - ・学習支援員やボランティアを配置し、中学生を対象とした学習支援を実施
- 運営委員会の設置
- コーディネーターの配置

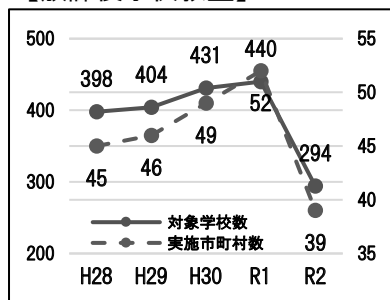
(3) 新型コロナウイルス感染症の影響

- 開催日数の減少や参加児童数を制限した教室があった。
- マスク、検温、ソーシャルディスタンスの確保など感染症対策を講じながら活動を行っている。
- オンラインを活用した活動など、コロナ禍の活動を模索している。

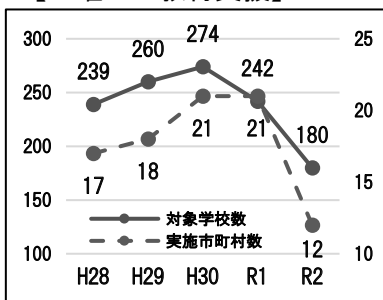
3 実施状況等

(1) 実施状況

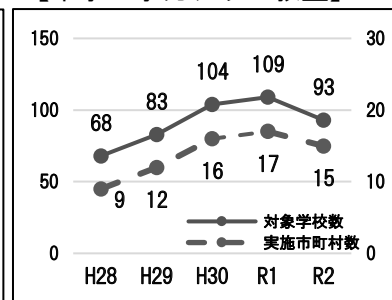
【放課後子供教室】



【土曜日の教育支援】



【中学生学力アップ教室】



(2) 令和2年度実施市町及び対象学校数

ア 放課後子供教室

- 実施市町：39市町、対象学校数：294校
- 補助対象市町：37市町、補助対象学校数：229校
(37市町のうち6市町は補助金の交付を受けたが、教室の開催を見送った)
- 中核・単独市町：8市町、対象学校数：65校

南部地区			西部地区			北部地区			東部地区		
市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数
鴻巣市	15	15	飯能市	1	1	熊谷市	29	29	行田市	11	11
上尾市	2	2	東松山市	10	10	本庄市	5	5	春日部市	1	1
草加市	18	18	入間市	32	16	深谷市	1	1	久喜市	16	23
志木市	8	8	富士見市	4	4	横瀬町	1	1	三郷市	2	8
和光市	18	9	鶴ヶ島市	11	8	長瀨町	2	2	蓮田市	1	1
新座市	17	17	嵐山町	1	3	小鹿野町	4	4	吉川市	1	1
桶川市	7	7	小川町	3	3	上里町	6	5	松伏町	1	1
北本市	8	8	ときがわ町	1	1	寄居町	6	6	加須市	2	2
川口市	25	25	川越市	3	3	皆野町	1	1	越谷市	12	19
			所沢市	11	11				幸手市	2	1
			滑川町	3	3						
9市	118	109	11市町	80	63	9市町	55	54	10市町	49	68

イ 土曜日の教育支援

- 実施市町：12市町、対象学校数：180校
- 補助対象市町：11市町、補助対象学校数：155校
(11市町のうち2市町は補助金の交付を受けたが、教室の開催を見送った)
- 中核・単独市町：3市町、対象学校数：25校

南部地区			西部地区			北部地区			東部地区		
市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数
上尾市	6	22	東松山市	1	1	熊谷市	1	45	三郷市	6	27
朝霞市	6	6	滑川町	3	3	深谷市	19	19			
新座市	31	17				寄居町	1	6			
北本市	12	12									
草加市	21	21									
伊奈町	11	1									
6市町	87	79	2市町	4	4	3市町	21	70	1市	6	27

ウ 中学生学力アップ教室

○実施市町：15市町、対象学校数：93校

○補助対象市町：9市町、補助対象学校数：46校

○単独・中核市町：6市町、対象学校数：47校

南部地区			西部地区			北部地区			東部地区		
市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数	市町村名	教室数	対象学校数
川口市	24	24	越生町	1	1	熊谷市	16	16	久喜市	11	11
草加市	3	3				深谷市	10	10	加須市	5	8
伊奈町	6	3				長瀨町	1	1			
						小鹿野町	6	1			
						神川町	1	1			
						上里町	2	2			
						寄居町	1	3			
						秩父市	1	8			
						美里町	2	1			
3市町	33	30	1町	1	1	9市町	40	43	2市	16	19

※1 政令指定都市（さいたま市）を除く。

※2 網掛け：中核市及び県の補助を受けずに単独事業として実施している市町。

※3 「対象学校数」とは、各事業に参加可能な子供が在籍する学校の数を表す。

(3) 成果

○子供たちに関する成果

- ・多くの体験活動を通して、子供たちの豊かな人間性の育成につながっている。
- ・上級生が下級生を教えるなど、異学年の交流が積極的に行われている。
- ・放課後子供教室で出会った地域の大人と顔見知りになることで、地域の中で挨拶を交わす関係も築けており、社会性や協調性を育む場となっている。

○保護者に関する成果

- ・放課後子供教室の活動の内容についての会話が多くなり、親子のコミュニケーションが多くなった。
- ・マスクの着用、手洗い、ソーシャルディスタンスの保持などの感染症対策を講じているので、安心して通わせることができる。

○指導者や地域に関する成果

- ・自身が学んできたことを子供たちに教えることで、自己有用感や生きがいを感じる。
- ・専門職員を講師に招くことで、社会教育施設や関係各課との連携も推進されている。
- ・スタッフ同士での交流も生まれ、地域のコミュニティづくりにつながっている。

(4) 課題

- ・活動の充実と感染症対策とのバランス
- ・学校や他団体との連携
- ・開催日数や活動場所の確保

第5 「放課後子供教室推進事業」 の実践事例 (実施市町の取組)



書初め教室
深谷市大寄小平日放課後子ども教室

鴻巣市（19校）

運営委員会名	鴻巣市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計24名)	実施校の校長代表者4名、実施校のPTA代表者1名、 放課後子ども教室コーディネーター14名、 放課後児童クラブ代表者2名、関係課職員2名		
検討内容	放課後子ども教室の実態把握について 事業計画、安全管理、広報活動等について 事業実施後の検証及び評価について		
放課後子供教室 実施教室数	15教室	放課後児童クラブ 箇所数	23箇所
対象学区	15校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 8教室
主な対象学年	全学年		連携型 5教室
登録児童数	700人	平均開催日数	17日
平均参加児童数	464人	ボランティア数	299人
コーディネーター数	15人	平均スタッフ数	9人
臨時休業等の影響	学校の臨時休業に伴い、市内全放課後子ども教室は、1学期の活動を中止した。2学期より感染予防対策を周知して、活動を再開した。密集・密接を防ぐため、各プログラムの参加人数の制限を行った。		

教室紹介

教室名	笠原小放課後子ども教室	活動場所	笠原公民館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 18人
			1日平均参加者数 17人
活動内容	学びっ子、季節の行事体験、科学工作、ダンス、手芸、英語、スポーツ、創作、お楽しみ、特別教室、(令和2年度は中止：茶道、おやつ作り)		
連携団体	保護者ボランティア、地域ボランティア、市民活動団体		
活動の成果	<p>小規模校のため登録児童は少ないが、児童は全ての体験活動に参加し、放課後教室を楽しみに毎回出席をしている。活動内容は多岐に渡り、年間定期的に開催される教室のほか、特別教室では外部指導者を招いて実験教室やマジック教室なども開催し、児童の興味関心の幅を広げている。</p> <p>活動場所は公民館でその施設を有効活用しての活動ができる。令和2年度は新型コロナウイルスにより中止となったが、例年開催している笠原公民館祭りには、放課後子ども教室で制作した作品の展示や茶道教室で学んだことを活かした「お茶会」にも手伝い等で積極的に参加し、地域の方との交流を深めている。</p> <p>保護者からは、放課後の短い時間に普段できない活動や体験ができること、地域の多くの方が子どもたちのために一生懸命活動し見守ってくれること、また他学年児童との交流や家庭でのコミュニケーションが増えたことなどで好評を得ている。</p>		



【季節の行事体験】
お正月の「しめなわ飾り」をつくろう！
密接を避けて、広い場所で活動した。



【手芸教室】
スタッフ総出の指導で素敵な手さげが完成！
スタッフはマスクにフェイスシールドを着用しています。

上尾市(22校)

運営委員会名	上尾市放課後子供教室運営委員会		
構成役職 (合16名)	コーディネーター(2名)、教育活動サポーター(2名)、地域の協力者(2名)、公民館長(6名)、生涯学習課職員(4名)		
検討内容	放課後子供教室活動報告、安全管理、地域協力者の確保、活動計画(予定)		
放課後子供教室 実施教室数	2教室	放課後児童クラブ 箇所数	35箇所
対象学区	2校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 2教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	19日
登録児童数	34人	ボランティア数	48人
平均参加児童数	17人	平均スタッフ数	6人
コーディネーター数	2人		
臨時休業等の影響	令和2年度の開始予定を6月としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、10月からの開始となった。開始後も2回目の緊急事態宣言を受け、1月から2月7日までを休止とし、以降調整中である。		

教室紹介

教室名	上尾市放課後子供教室	活動場所	大石・原市公民館
参加対象	大石・原市小学校児童	参加者数	登録児童数 34人 1日平均参加者数 17人
活動内容	避難訓練、将棋、読み聞かせ、手話、季節の行事等		
連携団体	公民館活動サークル、いきがい愛の会、子どもの読書活動支援センター		
活動の成果	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、スタッフが毎回受入れ準備として、教室のテーブル、椅子、名札の消毒を実施し、参加児童は検温・手洗い・マスクの着用を徹底している。</p> <p>プログラムについても、密を避け、人との距離が保てるようなプログラムを実施し座学中心の活動となっている。</p> <p>また、参加定数も密を避けるため昨年からの定数より減少させて募集を行った。</p>		



【手話を学ぼう】

名前や挨拶を手話でできるようになろう



【おはなし会】

わくわく、どきどき本の世界

草 加 市 (2 1 校)

運 営 委 員 会 名	草加市放課後子ども教室推進事業運営委員会		
構 成 役 職 (合 計 1 4 名)	放課後子ども教室代表者3名、放課後児童クラブ代表者2名、社会教育関係代表者1名、児童福祉関係代表者1名、草加市PTA連合会代表者1名、地域住民代表者3名、学校関係代表者1名、市職員2名		
検 討 内 容	事業計画の策定、安全管理方策の調査及び検討 広報活動方策の調査及び検討 ボランティア等地域協力者の人材確保方策の調査及び検討 事業実施後の検証・評価、放課後児童健全育成事業との連携の検討 新型コロナウイルス感染症対策についての検討 その他事業の運営に関し必要な事項		
放 課 後 子 供 教 室 実 施 教 室 数	18教室	放 課 後 児 童 ク ラ ブ 箇 所 数	38箇所
対 象 学 校 区	18校区	一 体 型 ・ 連 携 型 実 施 教 室 数	一体型17教室 連携型 1教室
主 な 対 象 学 年	1～6年	平 均 開 催 日 数	19日
登 録 児 童 数	1,555人	ボ ラ ン テ ィ ア 数	242人
平 均 参 加 児 童 数	504人	平 均 ス タ ッ プ 数	7人
コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	16人		
臨 時 休 業 等 の 影 響	学校の臨時休校の影響で10月まで全ての子ども教室の開催を見合わせた。また、新型コロナウイルスの影響により、辞退やお休みを希望するスタッフが増え、開催が出来ない教室が3校あった。		

教 室 紹 介

教 室 名	高砂小学校「ジャンプ！」	活 動 場 所	図工室、生活科室、校庭等
参 加 対 象	1年生～6年生	参 加 者 数	登録児童数 190人 1日平均参加者数 33人
活 動 内 容	宿題・ボール遊び・昔遊び・お絵かき・ボードゲーム等		
連 携 団 体	なし		
活 動 の 成 果	新型コロナウイルス感染対策のため、開催日数を週5日から週3日に変更するとともに、接触機会を減らす目的で参加する児童を学年毎に2つのグループに分け、教室を開催した。参加に当たっては、児童及びサポーターに対して、マスクの着用、部屋を移動する際のコまめな手洗いの実施、また、教室終了後には、机やドアノブの消毒も実施している。さらに、児童が毎日実施している体調チェックを参考に、サポーターにも毎日の健康チェックをお願いし、可能な限り、感染拡大の防止に努めた。		



【手洗い】

部屋を移動する際は、こまめに手洗い



【宿題・お絵かき】

パーティションを活用して密回避

志木市(8校)

運営委員会名	志木市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計18名)	行政関係者、学校関係者、学童保育クラブ関係者、社会教育関係者、児童福祉関係者、社会福祉関係者、PTA関係者、スポーツ・レクリエーション団体関係者、コミュニティ団体関係者、ボランティア団体関係者、小学校区内の地域住民及び委員会が特に必要と認めた者		
検討内容	放課後子ども教室全校の運営平準化、活動プログラムの企画、安全管理・広報活動方策、地域住民との多世代交流の継続、協力者の人材確保		
放課後子供教室 実施教室数	8教室	放課後児童クラブ 箇所数	8箇所
対象学区	8校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 8教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	245日
登録児童数	2,083人	ボランティア数	1,274人
平均参加児童数	171人	平均スタッフ数	8人
コーディネーター数	8人		
臨時休業等の影響	4月からの学校の臨時休業や新型コロナウイルス感染の影響で特例を設け、児童の受け入れの制限を行った。9月からの放課後子ども教室は、更に受け入れの制限をかけながら1か月の事前予約制をとった。		

※ボランティア数・・・10月から実施の放課後見守り隊の人数

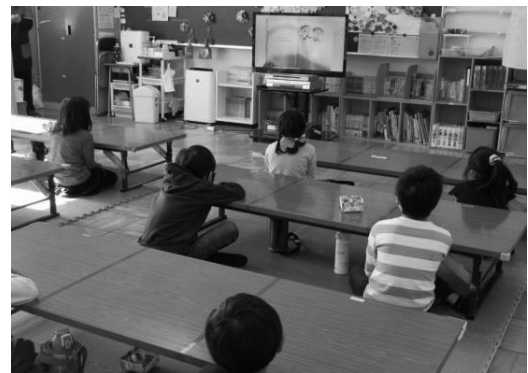
教室紹介

教室名	放課後志木っ子タイムむねおか	活動場所	学童専用教室／余裕教室
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 148人 1日平均参加者数 35人
活動内容	プログラム活動(あそび、ハンドメイド、硬筆、ダンス、こどもヨガ、ミニバス)		
連携団体	市民団体、地元サークル団体など		
活動の成果	<p>志木市では、令和2年度から全8校において放課後子ども教室と学童保育クラブの一体型運営の「放課後志木っ子タイム」を導入した。</p> <p>「放課後志木っ子タイムむねおか」は、今年度新規に開室をした教室であるが、新型コロナウイルス感染の影響でプレオープンの行事も中止となった。</p> <p>通常ならば子どもの「やってみよう」がかなう場所として市民先生ならではの講師陣の多彩な体験プログラムが予定されていたが、思うように実施できず、参加児童に限られている中で「平和について考える絵本の読み聞かせ」、校庭において「シャボン玉飛ばし」を行った。</p> <p>常にソーシャルディスタンスを保ちながらも工夫して事業を実施した。</p>		



【避難訓練】

どんな時でも、万が一に備えて定期的実施



【絵本のDVD鑑賞】

みんなでお行儀良くソーシャルディスタンス

和光市(9校)

運営委員会名	和光市子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計18名)	各小学校実行委員9名、和光市小学校校長会代表1名、和光市小学校教頭会代表1名、学童クラブ代表3名、コーディネーター代表2名、学校教育課長、生涯学習課長		
検討内容	放課後児童の居場所づくりに係る全体計画について わこうっこクラブ及び子ども教室の実態把握と運営改善について わこうっこクラブ及び子ども教室の運営にかかわる方策について		
放課後子供教室 実施教室数	18教室	放課後児童クラブ 箇所数	14箇所
対象学区	9校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型18教室 連携型0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	122日
登録児童数	1,188人	ボランティア数	108人
平均参加児童数	179人	平均スタッフ数	5人
コーディネーター数	12人		
臨時休業等の影響	6月まですべての教室の開催を見合わせた。スタッフの体制が整った会場から「わこうっこクラブ」は順次再開した。イベント型「子ども教室」は回数を減らし、児童の参加人数に上限を設け、10月から実施した。スタッフの確保が難しく、開催ができない会場がある。		

教室紹介

教室名	第五小学校わこうっこクラブ	活動場所	第五小学校一体型施設
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 206人 1日平均参加者数 12.6人
活動内容	宿題、自主学習、外遊び、工作教室、スポーツ教室、理科実験教室 等		
連携団体	近隣農園、白子川と水域の水環境をよくする会		
活動の成果	新型コロナウイルス感染症対策のため、参加時に健康観察と検温をしている。その後、児童は、手洗い、うがいをし、活動に移る。活動中はマスクを着用している。スタッフも活動前に検温を行っている。活動中はマスクを着用している。会場は、対角線上にあたる窓やドアを開放し、換気を徹底する。加湿器を利用し、湿度管理にも配慮している。イベントの際には、密集を避けるために参加者の上限を設定したり、児童同士が近づかないように机や席の配置を工夫したりして、プログラムを実施している。児童帰宅後は、物品の消毒を行っている。迎いの保護者にも、マスク着用を依頼し、室内への出入りが極力少なくなるよう協力を求めている。対策の徹底により保護者の安心感が高まり、参加児童数も徐々に増加してきている。		



【活動前の検温】

来室した児童の健康状態を個別確認



【裁縫教室】

距離をとって見守り、支援

新座市(17校)

運営委員会名	新座市子どもの放課後居場所づくり事業運営委員会		
構成役職 (合計21名)	教育長、小学校長、PTA代表者、町内会連合会会長、民生・児童委員協議会理事、社会教育委員、放課後児童保育室支援員代表者、実行委員会委員長、コーディネーター代表者、教育総務部長、学校教育部長、こども支援課長、保育課長、教育支援課長、社会福祉協議会副局長兼総務課長、生涯学習スポーツ課長		
検討内容	・事業の運営状況について ・アンケートの実施及び結果について ・事業に関する要綱、マニュアル等の改正について		
放課後子供教室 実施教室数	17教室	放課後児童クラブ 箇所数	17箇所
対象学区	17校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型16教室 連携型1教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	171日
登録児童数	3,879人	ボランティア数	259人
平均参加児童数	244人	平均スタッフ数	6人
コーディネーター数	47人		
臨時休業等の影響	学校の臨時休校に合わせ、既存校は6月15日から、令和2年度新規校は7月16日から開室した。参加児童による密を避けるため、1人で留守番できる児童等に参加の自粛を呼びかけた。		

教室紹介

教室名	陣屋ココフレンド	活動場所	ココフレンドスタッフルーム・多目的室・体育館・校庭
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 165人 1日平均参加者 17人
活動内容	宿題・プリント学習・読書・工作・ブロック・手作りおもちゃ遊び・ビデオ視聴・本の読み聞かせ・紙芝居・体育館遊び・外遊び(校庭)・特別講座(英語講座・科学教室・ダンス講座)・書道		
連携団体	民間業者・放課後児童保育室		
活動の成果	<p>今年度新規開室し、7月16日から活動を開始した。前半の学習の時間では、開室当初宿題をさせることが困難だった児童も自ら進んでやるようになり、午後3時20分頃まで、落ち着いた雰囲気の中で学習が出来ている。宿題後は、読書や学習プリントに取り組み、スタッフ指導による折り紙や手作りおもちゃなどの工作がさかんである。後半の自由時間では、外遊びは必ず校帽を被り、校庭内での所在が明確になるように努めている。体育館においても校庭においても、学校の約束やきまりをしっかり守るよう指導している。今のところ大きな事故やけがはなく、無事に過ごしている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、手洗いの励行、マスクの着用、ソーシャルディスタンス保持、手指及び遊具等の消毒、飛沫防止ガードの設置等を行っている。安全を第一とし、明るく楽しく、子どもにとってより充実した居場所となるようスタッフ一同やりがいをもって取り組んでいる。</p>		



【密を避けて活動】
「すわらないでね」のマークの席を空けて宿題。



【体育館での自由時間】
参加人数が少ないため個々に対応できる。

桶川市（7校）

運営委員会名	桶川市放課後子供教室事業運営委員会		
構成役職 (合計20名)	学校長(1名)、各小学校PTA役員(7名)、小学校区を活動圏域とする地域の方(1名)、各小学校コーディネーター(7名)、社会教育委員(1名)、行政関係者(3名)		
検討内容	事業計画の策定、事業実施後の検証及び評価等		
放課後子供教室 実施教室数	7教室	放課後児童クラブ 箇所数	7箇所
対象学校区	7校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 6教室 連携型 1教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	100日
登録児童数	180人	ボランティア数	約180人
平均参加児童数	88人	平均スタッフ数	5人
コーディネーター数	15人		
臨時休業等の影響	学校の臨時休業や新型コロナウイルス感染症の影響で、8月まで全教室の開催を見合わせた。運営委員会で協議のうえ、9月に開室する方針を決定し、児童の参加人数や活動内容に制限を設けながら開催した。		

教室紹介

教室名	川田谷小学校放課後子供教室 愛称・川田谷小学校あいあい広場	活動場所	川田谷小学校内
参加対象	川田谷小学校 全児童	参加者数	登録児童数 18人 1日平均参加者数 11人
活動内容	学習の時間(自主学習)、ふれあいの時間(卓球・昔遊び・蚕の観察・季節の工作・マンカラ・将棋・オセロ・葉づくり・外遊び・ペットボトルボウリング・ポッチャ・読み聞かせ等)		
連携団体			
活動の成果	「であい・ふれあい・学びあい」をモットーに、あいあい広場の5つの約束を守って、子供たちとスタッフが活動に取り組んでいる。今年度は、児童及びスタッフの入室時の検温、マスクの着用、常時換気、手指の消毒等、適切な感染防止対策を講じたうえで、実施している。感染リスクを出来るだけ軽減させるため、参加人数を減らし、限られたスタッフで活動できるように、ふれあいの時間の内容を工夫した。スタッフの創意工夫と協力があり、子供たちはどの活動においても、興味を持って楽しそうに参加する様子が見られた。		



【蚕の観察】

地域の方に蚕を見せてもらっている様子。
繭から糸を引き出す体験も。



【昔遊び】

けん玉にチャレンジ!
遊ぶ時もソーシャルディスタンスを守って。

北本市(8校)

運営委員会名	北本市放課後子ども教室推進事業運営委員会		
構成役職 (合計18名)	放課後子ども教室代表8名 放課後児童クラブ関係者1名 学校長代表2名 PTA代表2名 コミュニティ協議会代表2名 民生委員・児童委員1名 学校教育担当課長、子育て支援課長		
検討内容	実施計画の策定、安全管理方策、広報活動方策、地域の協力者を確保、事業プログラムの企画、事業実施後の検証及び評価、その他事業の運営に関し必要な事項。		
放課後子供教室 実施教室数	8教室	放課後児童クラブ 箇所数	11箇所
対象学区	8校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 8教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	106日
登録児童数	198人	ボランティア数	171人
平均参加児童数	81人	平均スタッフ数	6人
コーディネーター数	20人		
臨時休業等の影響	新型コロナウイルスの影響により、9月からの開室となった。1日1教室あたりの定員を指定し、座席にゆとりを持たせた。活動は各教室で三密にならない内容を工夫して実施している。開室時間を30分短縮させ、児童退出後はスタッフによる消毒作業を実施している。		

教室紹介

教室名	北小放課後子ども教室	活動場所	放課後子ども教室
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 20人 1日平均参加者数 10人
活動内容	学習(宿題, 自主学習)・室内活動(ゲーム, 将棋, 工作, 読書等)・スポーツ・外遊び		
連携団体	北本市放課後子ども教室スタッフ、地域サークル活動団体(公民館利用者)		
活動の成果	<p>新型コロナウイルス対策として、三密を避け、人数と活動の制限、検温と健康観察、消毒作業の徹底をはかった。スタッフと児童、保護者間で細心の注意を払い、工夫をしながら活動した。マイバックを用意し、学習ノートや各種道具類は個人用として持たせ、名札は事前に指定席に配布し、出席カードは直接の受け渡しを避けた。</p> <p>令和2年度は少人数となったため、児童たちとスタッフとの関係が深まり、アットホームな雰囲気、きめ細かく丁寧な指導ができた。消毒作業終了後のスタッフ反省会は、貴重な時間となった。</p> <p>また、職員室に日々の状況を伝え、連絡調整に努めた。保護者には、定期的な教室だよりの発行を通して情報提供し、下校時には児童の様子や、宿題の実施状況などを報告した。令和2年度は、放課後児童クラブとの交流が中止となり、ふれあい活動においても多人数でのボールゲーム等ができず、残念であった。今年度見送りとした吹き矢、囲碁、フォークダンス、歌、昔遊びなど、今後の復活が望まれる。</p>		



【工作】マイバックの中にある折り紙でハロウィングッズを作りました。



【読み聞かせ】指導の先生はフェイスガードをつけていろいろな本を読んでもくれます。

飯能市(12校)

運営委員会名	奥武蔵小学校放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計9名)	小学校長、放課後子ども教室コーディネータ1名、教育活動指導員3名、PTA代表、児童クラブ関係者、社会教育指導員、生涯学習課長		
検討内容	コロナ禍における放課後子ども教室の運営、活動内容について GIGAスクールのタブレットを活用した参加申込や出欠確認について 次年度の活動予定について		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	20箇所
対象学区	1校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	R2.9から22日
登録児童数	43人	ボランティア数	2人
平均参加児童数	33人	平均スタッフ数	4人
コーディネーター数	1人		
臨時休業等の影響	新型コロナウイルス感染症拡大防止の学校休校により、1学期の活動を中止した。運営委員会で新型コロナウイルス感染症対策を承認いただき、それに基づいて9月から実施している。		

教室紹介

教室名	おくむさし わくわくルーム	活動場所	飯能市立奥武蔵小学校図工室、音楽室、体育館、校庭
参加対象	奥武蔵小学校の全学年	参加者数	登録児童数 43人 1日平均参加者数 33人
活動内容	ミュージカルレッスン、リース作り、タブレットでゲーム、紙飛行機、シャボン玉、高麗川さんぽ、郷土の大型紙芝居、絵本を楽しもう、折り紙 等		
連携団体	名栗げんきプラザ、ソニー・ミュージックエンタテインメント		
活動の成果	<p>新型コロナウイルス対策のため、参加児童・スタッフ共に検温やマスク着用を必須とした。また都内からの講師は、マスク着用に加え、フェイスシールドも着用している。ソーシャルディスタンスを厳守し、密の危険性がある場合は教室を2つに分ける等の対応を行った。</p> <p>また前年度課題であった出欠の確認について、既存の電子申請システムを活用する運用に変え、保護者の利便性を上げた。また内容についても前年度のアンケートに基づき、要望の多い遊びを多く取り入れたプログラムを計画し、講師に依頼した。スタッフは教員経験者が多く、放課後子ども教室の開始から帰りのバスに乗せるまで、児童に対してきめ細かい対応を行った。</p>		



【はじめてのミュージカル vol.2 (月1回)】
今年もソニー・ミュージックエンタテインメントから講師をお迎えし、月1回開催。



【紙飛行機を作って飛ばそう】
折紙や長方形の用紙から紙飛行機を作成し、飛ばした。1枚の紙からできる不思議をみんなで体感した。

東松山市(11校)

運営委員会名	東松山市放課後子ども教室連絡会議		
構成役職 (合計35名)	放課後子ども教室コーディネーター10名、小学校長10名、PTA会長10名、放課後児童クラブ事務局長、教育総務課長、学校教育課長、保育課長、子育て支援課長		
検討内容	放課後子ども教室の検証について 放課後子ども教室の活動内容について 次年度の実施内容について		
放課後子供教室 実施教室数	10教室	放課後児童クラブ 箇所数	18箇所
対象学区	10校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 2教室 連携型 0教室
主な対象学年	1～3年	平均開催日数	41日
登録児童数	219人	ボランティア数	69人
平均参加児童数	140人	平均スタッフ数	5人
コーディネーター数	10人		
臨時休業等の影響	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、1学期中の教室は中止とした。10月から教室を再開したが、密を避けるために1日の参加児童数、従事するスタッフを少なくし活動を行っている。		

教室紹介

教室名	フレンズルームしんめい	活動場所	余裕教室、体育館、校庭
参加対象	1～3年生	参加者数	登録児童数 30人 1日平均参加者数 15人
活動内容	宿題、工作、室内ゲーム、体育館ゲーム、読み聞かせ、マット運動、跳び箱運動		
連携団体	外部講師(市に登録された方、グループ)		
活動の成果	<p>本教室では次のことを運営方針としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 子どもたちが安全で仲良く楽しく活動する教室 スタッフが楽しく協力して子どもたちの支援にあたる教室 保護者からの信頼を得られる教室 <p>コロナ禍への対応として入室の際の手指の消毒、トイレ、外遊びの後の手洗い、教室終了後の教室内の机、座布団、ロッカーなどの消毒を実践している。活動内容としては、工作(折り紙、割りばし鉄砲、紙飛行機など)やゲーム、体育館でのスポーツ、校庭での活動などをスタッフ一同で研究している。異学年集団のため、仲間意識が強くなり、上級生が下級生に学習、生活の手助けをし、互いの親和力を高めている。人間関係を結ぶのが苦手な子どもも教室の参加を楽しみにしている。</p>		



【体育館での活動】
スタッフの指導によるマット運動



【教室での活動】
読み聞かせ後の児童の感想発表

入間市(16校)

運営委員会名	入間市放課後子ども教室事業運営協議会		
構成役職 (合計15名)	入間市立小学校の児童の保護者の代表者2名、地域住民により組織する団体の代表者3名、学校教育及び社会教育の関係者4名、市内に在住する者のうちから公募するもの3名、知識経験者3名、事務局：青少年課		
検討内容	事業計画の策定に関すること。安全管理方策に関すること。広報活動方策に関すること。地域協力者の人材確保方策に関すること。実施プログラムの企画に関すること。事業実施後の検証及び評価に関すること。		
放課後子供教室 実施教室数	32教室	放課後児童クラブ 箇所数	22箇所
対象学区	16校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型29教室 連携型3教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	10日
登録児童数	420人	ボランティア数	69人
平均参加児童数	296人	平均スタッフ数	3人
コーディネーター数	8人		
臨時休業等の影響	1学期は新型コロナウイルス感染防止対策のため中止。2学期は一部教室で定員を減らして実施。3学期は緊急事態宣言期間を中止としている。		

教室紹介

教室名	わく☆ドキッ!ぶし	活動場所	仏子小学校理科室 他
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 30人 1日平均参加者数 20人
活動内容	昔遊び、生け花、工作、木工、かるた遊び等		
連携団体	NPO 法人あそびあーとこども劇場入間、入間市華道連盟 他		
活動の成果	新型コロナウイルス感染拡大のため、現状2学期のみの実施となってしまったが、感染防止対策に留意したうえで多岐にわたる体験活動を実施できた。参加者の保護者からは、「普段家庭には体験できないことにチャレンジできる」「同学年ではない子たちとも一緒に体験でき、遊びの幅が広がった」などの声があった。		



【クリスマスの飾りをつくろう】

毛糸を使用してクリスマスの飾りを作成



【絵手紙をかいてみよう】

書道用の筆を使った絵手紙の作成

富士見市(11校)

運営委員会名	富士見市地域子ども教室連絡協議会		
構成役職 (合計38名)	各教室運営委員25名、生涯学習課職員2名、公民館職員4名、交流センター職員1名、児童館職員3名、放課後児童クラブ職員1名、校長会2名他		
検討内容	各教室間の情報共有、共通課題とその解決策について他		
放課後子供教室 実施教室数	4教室	放課後児童クラブ 箇所数	23箇所
対象学区	4校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 4教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年、低学年	平均開催日数	2日
登録児童数	1,461人	ボランティア数	24人
平均参加児童数	107人	平均スタッフ数	4人
コーディネーター数	6人		
臨時休業等の影響	新型コロナウイルス感染症の影響で、すべての教室で開催を見合わせた。学校等も交えて協議し、体制が整った教室は7月から再開した。また通常活動ではなく、工作作品の募集など、感染症対策を講じた非接触型のプログラムに切り替えて実施した教室もあれば、今年度の活動を中止した教室もある。		

教室紹介

教室名	ふじみ野遊びーズ	活動場所	ふじみ野小学校
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数(昨年度)325人 1日平均参加者数(昨年度)240人
活動内容	工作広場、工作作品(おりがみ、絵など)の募集・掲示		
連携団体	ふじみ野小学校保護者教師の会、放課後児童クラブ、AIMふじみ野町会、シティヴェールふじみ野町会、NPO法人アルペジオ		
活動の成果	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年通りの活動は停止している。通常は、活動内で子供たちが描いた絵や折り紙をふじみ野駅地下道掲示板に掲示している。今年度は対面活動が出来なかったため、小学校昇降口に作品を投稿してもらい「作品ポスト」を設置し、そこに投稿してもらった児童の作品を地域の方と飾ることとした。学校の業間や昼休みを利用して工作ひろばを開催し、季節に合ったテーマで工作をすることもあった。直接は会えないが、子供たちと地域の方々の繋がりを持つことができた。この地下道は、往来する人々が多く、季節ごとに変わる作品を楽しみにしている市民も多くおり、遊びーズならではの活動となっている。		



【児童の工作活動】

業間や昼休みに工作ひろばを開催



【地域の方との連携(ふじみ野駅地下道掲示板)】

児童の工作作品を地域の方々が掲示

鶴ヶ島市（8校）

運営委員会名	鶴ヶ島市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計10名)	放課後子ども教室代表3名、放課後児童クラブ関係者1名、校長代表1名、PTA代表1名、子ども・地域に関する活動関係者4名		
検討内容	放課後子ども教室の実態把握について 新・放課後子ども総合プランの推進について 放課後子ども教室、放課後児童クラブの活動内容について		
放課後子供教室 実施教室数	11教室	放課後児童クラブ 箇所数	14箇所
対象学区	8校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 6教室
主な対象学年	全学年		連携型 5教室
登録児童数	414人	平均開催日数	74日
平均参加児童数	110人	ボランティア数	46人
コーディネーター数	11人	平均スタッフ数	4人
臨時休業等の影響	年度当初の臨時休業やその後の感染拡大防止、再度の緊急事態宣言発出により、開始時期が遅れたり、結果として実施を見合わせたりしたため、全体的に影響が生じた。		

教室紹介

教室名	放課後のびのび算数教室	活動場所	市内全小学校（8校）
参加対象	2年生～6年生	参加者数	登録児童数 平均48人 1日平均参加者数 10人
活動内容	算数の基礎学習を通じて、「わかる」「できた」喜びを味わい、算数好きな児童を育てながら学習意欲の向上を図る。		
連携団体	算数学力向上支援員		
活動の成果	<p>年度当初に復習プリントを行い、個々のつまづきのポイントを確認した上でプリントやタブレットによる学習を始めている。また、授業の進度に合わせるために、担任と学力向上支援員との間で連絡ノートを活用している。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により開始が遅れたが、子供たちからは、「わかりやすく教えてもらって算数が好きになった」「また参加したい」などの感想があった。スタッフからは、「子供たちの成長を見ることが楽しみ」「生きがいを感じながら地域に貢献できる」などの声が寄せられている。</p> <p>課題としては、参加しやすい環境づくりとスタッフの確保が挙げられる。今後は、新しい生活様式を踏まえた安全への配慮に努めるとともに、より効果的な指導を行えるよう、プリント作りを検討していきたいと考えている。</p>		



【プリント学習】

指導員からの指導を受けて



【プリント学習】

自主学習

嵐山町（3校）

運営委員会名	嵐山町交流センター運営協議会		
構成役職 (合計10名)	地域団体の関係者、ボランティア団体の関係者、学校教育及び社会教育関係者、センター利用団体関係者の外、町長が特に必要と認める者		
検討内容	放課後子供教室の運営状況、活動内容等の実態把握		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	4箇所
対象学区	3校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	4日
登録児童数	44人	ボランティア数	1人
平均参加児童数	19人	平均スタッフ数	4人
コーディネーター数	1人		
臨時休業等の影響	<p>年度当初から小学校が休校だった為、活動ができなかった。2学期より感染の危険性を考慮しながら活動を再開した。</p> <p>本来なら児童クラブとの連携も計画していたが、コロナ禍での体制が整わなかった為、連携での活動を中止した。</p>		

教室紹介

教室名	嵐山町放課後子供教室スイミー	活動場所	嵐山町ふれあい交流センター
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 44人 1日平均参加者数 19人
活動内容	自由遊び、マジック教室、なわとび教室、さつま芋掘り体験、体操教室 他		
連携団体	大妻嵐山中学・高等学校		
活動の成果	<p>コロナウィルス感染防止の為、参加児童にはマスク着用と活動ごとの検温をお願いした。</p> <p>昨年まで実施していた行政バスを使用したバス研修や調理を伴う活動、楽器の演奏等の活動を見合わせ、事業の分散、広い会場を使用、屋外等で換気や密にならないよう配慮した活動を行った。</p>		



【特別教室 なわとび教室】
ダブルダッチに挑戦



【さつま芋掘り体験】
地元団体協力の元、収穫体験ができた。

小川町(6校)

運営委員会名	小川町放課後子供教室運営委員会		
構成役職 (合計16名)	区長会長、老人会長、校長会代表、社会教育委員代表、PTA会長3名、民生児童委員、放課後児童クラブ代表、公民館運営審議委員、学識経験者2名、学校教育課長等		
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子供教室の実態把握 ・使用施設、設備等の利用状況と課題について ・新たに2教室立ち上げる計画について 		
放課後子供教室 実施教室数	3教室	放課後児童クラブ 箇所数	7箇所
対象学区	3校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 2教室 連携型 1教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	26日
登録児童数	130人	ボランティア数	30人
平均参加児童数	125人	平均スタッフ数	12人
コーディネーター数	3人		
臨時休業等の影響	緊急事態宣言を受けた学校の臨時休業により、町内すべての放課後子供教室が3月から6月まで休室となった。4月に予定した保護者説明会も中止となった。入室児童数も、昨年より3割減となってしまった。7月になり、今年度初めて放課後子供教室が開室できた。		

教室紹介

教室名	おおかわキッズ	活動場所	余裕教室、校庭、体育館等
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 30人 1日平均参加者数 28人
活動内容	通常(宿題、外遊び)、 特別の活動(音楽鑑賞、琴の体験、英語活動、人権DVD視聴、お楽しみ集会等)		
連携団体	琴サークル、英語教室、消防署等		
活動の成果	<p>感染症対策は、スタッフの検温・健康カードの提出から始まり、机・椅子・ドア等、児童が触れそうなものの消毒を丁寧に行っている。(開室前後)</p> <p>グループ活動は行わず、いわゆる3密を避けての取組を継続している。スタッフは必要に応じ、マスクに加え、フェースシールドを着用した。</p> <p>今年度の新たな取組として、英語を使ったペーパークラフト、「アマビエづくり」、ピアニストの方をお招きしての音楽鑑賞会、更に人権DVDを視聴する「あったか♥ハートタイム」を行うことができた。</p> <p>学童クラブに所属している児童を安全に送り届け、情報を共有している。</p> <p>運営委員会は、感染症対策を行い、今年度3回実施できる見込みである。</p>		



【英語活動のようす】

英語を使ったペーパークラフト・アマビエづくり



【音楽鑑賞会】

ピアニストを招いての音楽鑑賞のつどい

ときがわ町(3校)

運営委員会名	萩ヶ丘いきいき教室打ち合わせ会		
構成役職 (合計9名)	小学校長、小学校教頭、萩ヶ丘いきいき教室指導員(6名うち1名放課後児童クラブ指導員兼務)、生涯学習課担当者		
検討内容	萩ヶ丘いきいき教室の活動について		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	3箇所
対象学区	1校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 1教室
主な対象学年	全年	平均開催日数	190日
登録児童数	27人	ボランティア数	0人
平均参加児童数	27人	平均スタッフ数	2人
コーディネーター数	1人		
臨時休業等の影響	新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休校のため、5月まで教室の開催を見合わせた。6月から学校が再開となり、6月15日から教室を開始した。開催日数が減少した分、感染症対策を含めた参加児童のフォローを行うため、必要に応じスタッフの増員を行った。		

教室紹介

教室名	萩ヶ丘いきいき教室	活動場所	萩ヶ丘小学校教室、校庭
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 27人 1日平均参加者数 27人
活動内容	宿題のサポート、校内での遊び		
連携団体	萩ヶ丘小学校		
活動の成果	新型コロナウイルス感染症対策については、学校生活における対策のほか、スタッフの手指消毒、マスク着用、物品の消毒等を行った。活動場所である教室内の換気機能を向上させるため、扇風機の導入も併せて行った。		



【校庭での遊び】



【校庭での遊び】

熊谷市(29校)

運営委員会名	熊谷市放課後子供教室運営委員会		
構成役職 (合計17名)	熊谷市PTA連合会1名、熊谷市子ども会育成連絡協議会1名、熊谷市青少年健全育成市民会議1名、熊谷市社会福祉協議会1名、熊谷市自治会連合会1名、熊谷青年会議所1名、熊谷市校長会2名、熊谷市公民館連合会1名、(公財)熊谷市体育協会1名、熊谷市文化連合1名、熊谷の環境を考える連絡協議会1名、子どもセンターボランティア代表者1名、熊谷市社会教育委員会議1名、小学校区代表1名、社会教育課長1名、社会教育課指導主事1名		
検討内容	放課後子供教室の実態把握について 放課後子供教室ボランティア研修会の内容について		
放課後子供教室 実施教室数	29教室	放課後児童クラブ 箇所数	50箇所
対象学区	29校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型23教室 連携型5教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	22日
登録児童数	9100人	ボランティア数	2179人
平均参加児童数	928人	平均スタッフ数	3.5人
臨時休業等の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業中は活動を中止した。 ・宿泊事業、バス等を活用する移動を伴う活動は中止とした。 ・多くの教室が活動を縮小、自粛している。 		

教室紹介

教室名	めめまっ子スクール	活動場所	校庭、体育館、教室等
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 299人 1日平均参加者数 30人
活動内容	夏祭り、水耕栽培、餅つき体験、プログラミング体験等		
連携団体	おやじの会、PTA地区理事、その他		
活動の成果	<p>参加者はマスクを着用し、受付時に検温・消毒等を行い、健康観察を徹底した。参加学年を制限し、その中でもグループ分けをし、人数を減らしてローテーションをしながら順番に体験を行った。飲食を伴う場合は場所を指定し、隣との間隔を空け、同じ方向を向いて行った。</p> <p>おやじの会やPTA、地元企業の協力により、夏祭りや水耕栽培、餅つき体験など、学校・家庭ではなかなかできない体験を多数実施することができた。家庭・地域・学校が一体となり、子供たちを育てていこうとする高い意識が感じられた。</p>		



【夏祭り】

異学年グループを編成し、スポーツなどを体験



【水耕栽培】

水耕栽培の苗植えや収穫を体験

本 庄 市 (12校)

運営委員会名	小学生学習支援事業運営委員会		
構成役職 (合計7名)	コーディネーター5名、教育委員会職員2名		
検討内容	各教室での活動内容の計画、報告 活動に係る方、保護者からの意見収集 児童の安全管理、施設的环境整備		
放課後子供教室 実施教室数	5教室	放課後児童クラブ 箇所数	22箇所
対象学区	5校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	10日
登録児童数	50人	ボランティア数	27人
平均参加児童数	42人	平均スタッフ数	20人
コーディネーター数	5人		
臨時休業等の影響	児童を募集する際、会場のスペースに応じた定員を設けた。定員に満たない会場が多く、参加をためらうご家庭がうかがえる。		

教室紹介

教室名	「学ぼう舎」北泉公民館	活動場所	公民館等
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 9人 1日平均参加者数 8人
活動内容	宿題、もの作り、植物観察、ボール遊び、読み聞かせ 等		
連携団体	地域ボランティア、公民館		
活動の成果	新型コロナウイルス感染防止のため、参加する児童及びスタッフも入館時の検温とマスク常時着用を徹底している。また、使用した机やイス、備品等の除菌や定期的な換気を行っている。密集を避けるために各館の定員を設けた。		



【植物観察】
小松菜の種まき



【もの作り】
クリスマスリース作り

深谷市（19校）

運営委員会名	大寄小放課後子ども教室 運営会議		
構成役職 (合計5名)	放課後子ども教室代表者1名、地域の代表者1名、放課後児童クラブ代表者1名、市職員2名		
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室の実施方法 ・安全管理方策の検討 ・活動プログラムの報告 		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	1箇所
対象学区	1校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 0教室
主な対象学年	3年～6年生	平均開催日数	7日
登録児童数	17人	ボランティア数	2人
平均参加児童数	17人	平均スタッフ数	3人
コーディネーター数	1人		
臨時休業等の影響	学校の臨時休校や新型コロナウイルスの影響もあり、感染症対策をしつつ、11月末から実施した。		

教室紹介

教室名	大寄小平日放課後子ども教室	活動場所	大寄小学校
参加対象	大寄小3年生～6年生	参加者数	登録児童数 17人 1日平均参加者数 17人
活動内容	パラリンピック競技スポーツ体験、ダンス教室、書初め教室、英語体験		
連携団体	スポーツ推進員		
活動の成果	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、参加児童には検温や手指消毒、マスクの着用をお願いしている。</p> <p>コロナの影響により制約があるなかで、スポーツ推進員とパラリンピック競技であるポッチャを楽しんだり、書初め教室では集中して課題の字を書く姿が見られた。</p>		



【パラリンピック競技ポッチャ】



【間隔をあけて書初め教室】

横瀬町(1校)

運営委員会名	横瀬町放課後等子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計9名)	横瀬小学校長、教頭、放課後等子ども教室指導員6名、横瀬町教育委員会担当者		
検討内容	放課後等子ども教室活動内容について 運営及び活動内容の成果と課題について協議		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	1箇所
対象学区	1校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 1教室
主な対象学年	1・2年	平均開催日数	207日
登録児童数	45人	ボランティア数	70人
平均参加児童数	40人	平均スタッフ数	3人
コーディネーター数	1人		
臨時休業等の影響	学校の臨時休業や新型コロナウイルスの影響で臨時的閉室日を設けたり行事の開催を見合わせたりした。密集を避けるため、活動場所を分けたり活動内容やスタッフの配置に工夫をしたりした。		

教室紹介

教室名	横瀬町放課後等子ども教室	活動場所	横瀬町立横瀬小学校
参加対象	1・2年生	参加者数	登録児童数 45人 1日平均参加者数 40人
活動内容	宿題、折り紙、軽スポーツ、読み聞かせ、読書、ビデオ鑑賞、オンラインビデオ等		
連携団体	学校応援団、公民館、町役場職員		
活動の成果	<p>新型コロナウイルス感染症対策のため、参加児童には検温やマスクの着用をお願いしている。スタッフはマスクを着用した。活動の際には、密集を避けるために参加者の上限を設定したり児童同士が近づかないようなプログラムや遊びを中心に実施したりしている。様々な活動が制限される中、「世界の果てまで行った気になる?!」を開催した。この活動は、Google EarthやWeb会議アプリなどのオンラインツールを利用して、子ども達が教室に居ながら世界中の街に行った雰囲気を楽しめる内容である。子ども達は外出しにくい時だからこそ、とても楽しい海外旅行を楽しむことができた。</p>		



【町役場職員との連携】
世界旅行した気になる



【軽スポーツ】
縄跳び教室

長 瀨 町 (2校)

運 営 委 員 会 名	放課後子供教室運営委員会		
構 成 役 職 (合 計 名)	放課後子供教室代表2名、児童クラブ室代表2名、小学校長2名、PTA代表2名、児童クラブ室担当、健康福祉課長、教育長、教育次長、指導主事、事務局(教育総務担当主幹、教育総務担当主査、学校教育指導員)		
検 討 内 容	放課後子供教室の基本構想・活動内容について		
放 課 後 子 供 教 室 実 施 教 室 数	2教室	放 課 後 児 童 ク ラ ブ 箇 所 数	2箇所
対 象 学 校 区	2校区	一 体 型 ・ 連 携 型 実 施 教 室 数	一体型 教室 連携型 2教室
主 な 対 象 学 年	1～3年	平 均 開 催 日 数	54日
登 録 児 童 数	33人	ポ ラ ン テ ィ ア 数	0人
平 均 参 加 児 童 数	33人	平 均 ス タ ッ プ 数	5人
コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1人		
臨 時 休 業 等 の 影 響	学校の臨時休業や新型コロナウイルスの影響により、臨時休業中は教室の開始を見合わせた。6月下旬から、指導員や活動内容等の運営体制が整ったところから開室した。企画行事は、感染症拡大防止のために実施回数及び活動内容を見直したことから、実験教室・郷土伝統教室などが実施できなかった。		

教 室 紹 介

教 室 名	はつらつルーム(長瀨第一小)	活 動 場 所	普通教室
参 加 対 象	1～3年生	参 加 者 数	登録児童数 19人 1日平均参加者数 19人
活 動 内 容	宿題、読書、工作、企画行事(軽スポーツ体験)		
連 携 団 体	町民団体		
活 動 の 成 果	新型コロナウイルス感染症対策のため、参加児童にはマスクの着用及び手指消毒を実施している。活動時は、机の配置を工夫し身体的距離の確保をするとともに換気を徹底している。指導員は、児童一人ひとりの健康状態を把握しながら個別の学習活動を中心に指導を行っている。		

**【宿題・学習の個別支援】**

感染症予防対策を講じながら学習を支援した

**【ドッチビー体験】**

町職員が講師となり、軽スポーツを楽しんだ

小鹿野町(4校)

運営委員会名	小鹿野町放課後子供教室運営委員会		
構成役職 (合計15名)	放課後子供教室代表4名、各小学校長、各小学校放課後子供教室担当者、学校教育課長、社会教育主事、学校教育指導主事		
検討内容	放課後子供教室の運営状況について 活動内容についての情報共有		
放課後子供教室 実施教室数	4教室	放課後児童クラブ 箇所数	4箇所
対象学区	4校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 2教室 連携型 2教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	29日
登録児童数	46人	ボランティア数	82人
平均参加児童数	46人	平均スタッフ数	3人
コーディネーター数	6人		
臨時休業等の影響	臨時休業により、放課後子供教室の開始時期が遅れたが、コーディネーターを中心とした地域の方々の支援により、6月の学校再開から手指消毒及びマスクの着用、密を避ける等の感染症対策を講じ、創意工夫に富んだ活動を実施している。緊急事態宣言中には、予定していた計画を中止した。		

教室紹介

教室名	三田川小学校いきいき教室	活動場所	1年教室、校庭、体育館
参加対象	第1学年	参加者数	登録児童数 6人 1日平均参加者数 6人
活動内容	昔遊び、秩父音頭指導、読み聞かせ、製作、スイカ割り、手品等		
連携団体	学校応援団、秩父音頭サークル、かたつむりの会、 民生委員・児童委員、主任児童委員		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ○指導者の創意工夫に富んだ活動を毎回実施していただき、児童は楽しみながら体験を重ね、知識や技能が身に付いた。 ○放課後子供教室の実施により、1年生が他学年の児童と集団下校することができ、下校時における安全対策の一環となっている。 ○地域の伝統的な行事にも関わることができ、地域ならではの文化を守り、引き継ぐことができています。 ○秩父音頭を全2回ご指導いただいたことで、運動会では上級生と遜色ない立派な踊りを披露することができました。 		



【紙芝居の読み聞かせ】

昔から親しまれている童話を、紙芝居で読み聞かせをしていただいた。



【石膏作品作り】

石膏を固めて、食べものなど自分の好きな作品を製作した。

上里町（5校）

運営委員会名	上里町放課後子供教室運営委員会		
構成役職 (合計20名)	実施校校長5名、公民館代表1名、PTA1名、子ども会育成会1名、スポーツ少年団1名、ボランティア団体1名、関係課室長4名、実施校コーディネーター4名、学識経験者2名		
検討内容	放課後子供教室年間事業計画検討、事業成果検証		
放課後子供教室 実施教室数	6教室	放課後児童クラブ 箇所数	5箇所
対象学区	5校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室
主な対象学年	全学年		連携型 1教室
登録児童数	250人	平均開催日数	5日
平均参加児童数	30人	ボランティア数	45人
コーディネーター数	10人	平均スタッフ数	10人
臨時休業等の影響	学校休校に伴い授業日の放課後に実施しているのびっこ教室について例年5月から開始しているものを、学校再開後の8月末からの開始とした。また、児童クラブとの一体型事業についても人数が増え、密集が避けられないため、中止とした。毎年開催している通学合宿「わんぱく合宿塾」については、3密が避けられない他、感染症対策を講じることが困難なため、中止とした。のびっこ教室、ちやれんじクラブについても食事を伴うものや、3密が避けられないものに関しては実施を中止しているため、例年よりも企画が行えていない。		

教室紹介

教室名	上里東のびっこ教室	活動場所	上里東小学校
参加対象	小学校1年生～3年生	参加者数	登録児童数 30人
			1日平均参加者数 25人
活動内容	宿題・読書・工作・体育館遊び等		
連携団体			
活動の成果	<p>上里町放課後子供教室（上里東小学校のびっこ教室）は、放課後の空き教室等を利用し、週2日間、子供達が放課後に、異年齢の仲間と安全かつ安心して学習や体験活動、様々な遊び等を通して、異年齢交流を図れる居場所づくりを実施している。令和2年度は感染症の影響もあり、活動日数、参加者、企画物の減少はあったが、対策を講じながら実施することができた。</p> <p>ボランティアには地域の方や、退職教員にご協力いただいて開催している。時期に応じて、工作等さまざまな事業をサポートが提案していただき、通年を通して子供たちは飽きずに楽しんでいる。毎回前半に学習タイムを30分間設けることにより、のびっこ教室にて宿題を終わらせる子が多くおり、保護者からも家で宿題をさせる必要がないので助かっているという声が上がっている。</p> <p>子供たちにとっては異年齢の子たちと遊べる数少ない機会となり、サポート者にとっても地域の子供と触れ合える機会となり、双方にとって良い効果が出ている。</p>		

寄居町(6校)

運営委員会名	「より・E放課後塾」運営委員会		
構成役職 (合計7名)	各小学校代表者6名、教育委員会担当者1名		
検討内容	「より・E放課後塾」の実施方法、活動内容等について		
放課後子供教室 実施教室数	6教室	放課後児童クラブ 箇所数	6箇所
対象学区	6校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 4教室 連携型 2教室
主な対象学年	2年	平均開催日数	18日
登録児童数	195人	ボランティア数	28人
平均参加児童数	185人	平均スタッフ数	5人
コーディネーター数	6人		
臨時休業等の影響	学校の臨時休業や新型コロナウイルスの影響で5月まですべての教室の開催を見合わせた。6月からスタッフの体制が整ったところから開催を月2回とし教室を再開した。		

教室紹介

教室名	より・E放課後塾(鉢形小)	活動場所	教室
参加対象	2年生	参加者数	登録児童数 46人 1日平均参加者数 43人
活動内容	算数を中心とした補充学習		
連携団体	学習支援サポーター		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ●5時間授業の日の6校時に「より・E放課後塾」を実施したことで、2年生の全児童が参加できた。5月から3月まで1年間通して算数を中心に指導したことで、その学年の学習内容の補充学習ができ、復習する時間を確保できた。 ●感染防止対策のもと教室数を増やし密を避け本事業を行った。 ●少人数指導を行ったことで、「わかった、できるようになった」という声が児童から聞かれた。 ●各学校に配属されている学習支援サポーター(教員経験者や教員免許状保有者)が放課後学習サポーターとして指導したことにより、学習内容を学級担任と相談し、児童の理解度を把握した上で指導することができ、授業との接続が図れた。 ●学習内容の定着と学習意欲の向上をめざし、各クラスに複数の指導者を配置して個に応じたきめ細かい指導を行った。個々の理解度に応じて補充的または発展的な学習を行うことができた。書く能力の向上が図られた。 ●学校の授業に即したドリル教材や県が作成した「コバトン問題集」なども活用し、練習問題に数多く取り組ませることで、基礎基本の定着が図れた。 		



【授業の様子】 複数の指導者で補充学習を行い、学習内容の定着を図った。



【個別指導の様子】 個別指導を行い、一人一人が学習内容を確実に理解できるようにした。

行田市(16校)

運営委員会名	行田市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計18名)	放課後子ども教室コーディネーター11名、小学校長2名、PTA代表1名、社会教育関係者2名、自治会長1名、ひとつくり支援課長1名		
検討内容	放課後子ども教室の運営状況 活動内容についての情報共有 安全管理、課題解決のための協議等		
放課後子供教室 実施教室数	11教室	放課後児童クラブ 箇所数	19箇所
対象学区	11校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 9教室 連携型 2教室
主な対象学年	1～3年	平均開催日数	11日
登録児童数	494人	ボランティア数	119人
平均参加児童数	350人	平均スタッフ数	9人
コーディネーター数	11人		
臨時休業等の影響	学校の臨時休業や新型コロナウイルスの影響で、8月まで全ての教室の開催を見合わせた。9月から、スタッフの体制等が整ったところから教室を再開し、10月には全ての教室で再開することができた。		

教室紹介

教室名	中央小学校わくわくクラブ	活動場所	進修っ子ルーム、PTA室、 体育館
参加対象	1～3年生	参加者数	登録児童数 71人 1日平均参加者数 35人
活動内容	昔の遊び、行田音頭、正月飾り、マジックショー、折り紙(県ふれあい事業) 他		
連携団体	なし		
活動の成果	令和元年度に開始した「中央小学校わくわくクラブ」では、元市職員で民生・児童委員を務める方にコーディネーターを委嘱し、学区に居住する方を中心にスタッフを集め、学校と地域の連携を深めた活動を行っている。新型コロナウイルス感染症対策のため、参加児童には検温、マスクの着用、手指の消毒をお願いしている。スタッフはマスクを着用し、必要に応じてフェイスシールドを使用できるようにしている。活動の際には、密集を避けるために活動場所を分けたり、広い活動場所を使用したりすることで、児童同士が近づかないよう配慮している。プログラムの内容も児童やスタッフが距離を保てる活動に内容を変更して実施している。		



【行田音頭を踊ろう】

行田音頭保存会の方に教えていただきました



【門松を作ろう】

色紙を使って門松飾りを作りました

春日部市(23校) ※義務教育学校を含む

運営委員会名	春日部市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計 12名)	小学校長会代表、社会教育委員、自治会連合会代表、青少年育成春日部市民会議代表、生涯学習市民推進員、PTA連合会代表、放課後子ども教室代表2名、共栄大学客員准教授、保育課主幹、指導課長、中央公民館長		
検討内容	「放課後子ども総合プラン春日部市行動計画(第2次)」策定の報告 令和2年度春日部市放課後子ども教室の運営 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた留意事項		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	23箇所
対象学区	1校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	4日
登録児童数	48人	ボランティア数	登録制ではない
平均参加児童数	38人	平均スタッフ数	10人
コーディネーター数	24人		
臨時休業等の影響	学校の臨時休業による影響や児童・スタッフへの新型コロナウイルス感染症のリスクを考慮し、実施できた教室は23校中1校である。		

教室紹介

教室名	武里南小学校放課後子ども教室 愛称「南風どんぐり教室」	活動場所	体育館、校庭
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 48人 1日平均参加者数 38人
活動内容	郷土かるた、キックベース、シッポ取りゲーム		
連携団体	PTA、保護者ボランティア、大学生、自治会等		
活動の成果	例年は、大学生や自治会等多くの地域の方々に参画を得て教室を運営しているが、今年度は、スタッフ数や参加児童数を制限し、事業規模を縮小して運営をしている。また、マスクの着用と手指消毒を徹底するなど、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、いわゆる3密を避けるために、校庭や体育館での遊びを中心に活動を実施している。特に体育館で行う「かすかべ郷土かるた」は、かるた競技の特性である近接・対面を回避するため、特別なルールで楽しむことができた。詠まれた札を取る際、児童同士が接触しそうになると、高学年の児童が低学年の児童に自然と譲っており、学年の垣根を超えた放課後子ども教室ならではの子どもたちの成長の場を見ることができた。		



【かすかべ郷土かるた】

密を回避するため、特別なルールで遊びました



【キックベース】

校庭でのびのびと遊びました

久喜市(23校)

運営委員会名	久喜市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計41名)	社会教育委員代表1名、市内校長会代表1名、スポーツ推進委員代表1名、学童保育運営協議会代表1名、スポーツ少年団代表1名、子ども育成連合会代表1名、民生委員・児童員協議会代表1名、レクリエーション協会代表1名、PTA連合会代表1名、婦人会連合会代表1名、青年会議所代表1名、生涯学習推進者5名、各教室代表23名、生涯学習課長、保育課長		
検討内容	新型コロナウイルス感染症対策について、令和2年度久喜市放課後子ども教室の活動について、予算について、活動報告書の作成について		
放課後子供教室 実施教室数	16教室	放課後児童クラブ 箇所数	23箇所
対象学区	23校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型19教室 連携型4教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	約7日
登録児童数	1,689人	ボランティア数	1,352人
平均参加児童数	約1,500人	平均スタッフ数	約85人
コーディネーター数	26人		
臨時休業等の影響	学校の臨時休業に伴い、久喜市放課後子ども教室における各実施委員会の会議についても中止とした。開校については、原則9月以降とし、中止とした放課後子ども教室は7校であった。		

教室紹介

教室名	かやまっ子ゆうゆうプラザ	活動場所	特別教室、校庭、体育館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 39人 1日平均参加者数 約35人
活動内容	おやつ作り、生け花、スポーツ(室内ボール遊び、サッカーなど)、将棋、キューブ、農園体験		
連携団体	JA南彩(農園体験)		
活動の成果	開校10年目はコロナ禍での活動となり、様々な制限がある中、9月からのスタートとなった。例年より少ない参加児童数であったが、保護者、地域の方々の協力により、少人数だからこそ、児童たちにとってより有意義なものとなった。参加児童に配布している「ゆうゆうプラザノート」は、活動終了後、一週間以内に感想を記入することになっている。すべての活動において、指導者は次回までに「ゆうゆうプラザノート」に目を通し、参加児童全員のノートにコメントを記載することとなっており、活動の充実につながっている。		



【スポーツ】
保護者の方も一緒に



【農園体験】
さつまいもと大根の収穫

三郷市(19校)

運営委員会名	三郷市放課後子ども教室運営委員会		
構成役職 (合計11名)	地域住民の代表、社会教育経験者(3名)、放課後子ども教室代表(3名)、PTA代表、学校教育担当課長、子ども支援課長、学校教育関係者		
検討内容	放課後子ども教室 運営方法について 今年度の活動状況及び来年度の活動予定について		
放課後子供教室 実施教室数	2教室	放課後児童クラブ 箇所数	19箇所
対象学区	8校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 0教室 連携型 2教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	20日
登録児童数	13人	ボランティア数	13人
平均参加児童数	5人	平均スタッフ数	3人
コーディネーター数	2人		
臨時休業等の影響	新型コロナウイルスの影響により、9月まですべての教室の開催を見合わせた。10月から、感染拡大防止策を講じた運営について合意が得られた2教室で再開した。		

教室紹介

教室名	わくわく砦たかす	活動場所	高州地区文化センター
参加対象	高州小学校、高州東小学校、前谷小学校、吹上小学校の全学年	参加者数	登録児童数 4人 1日平均参加者数 4人
活動内容	ストラップ、万華鏡、アイロンビーズ等の工作、クイズ 等		
連携団体	特定非営利活動法人M i K Oねっと		
活動の成果	わくわく砦たかすは、毎週火曜日週1回開室している。従来の活動では、自由遊びが中心だったが、現在、新型コロナウイルス感染症対策のため、座席にて工作等を行っている。プラバンのストラップ、ハロウィン仕様のステンドグラス、アイロンビーズ、クリスマスカード、折り紙の手裏剣、万華鏡など、多様な創作活動を提供することができ、それぞれの児童が作品に創意を加えながら活動を楽しんでいた。		



【プラバンのストラップづくり】
オリジナルのストラップづくりにチャレンジ



【くるくるレインボー作り】
上手に完成できるかな？

蓮田市（8校）

運営委員会名	蓮田市放課後子ども教室推進事業運営委員会（蓮田市社会教育委員会）		
構成役職 （合計7名）	蓮田市小中学校長会、子ども会、スポーツ推進委員、民生委員・児童委員、市議会議員（学識経験者）、ボーイスカウト、NPO子育て支援団体		
検討内容	放課後子ども教室の活動内容について 社会教育について		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	12箇所
対象学区	1校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室
主な対象学年	全学年		連携型 0教室
登録児童数	24人	平均開催日数	2日
平均参加児童数	24人	ボランティア数	0人
コーディネーター数	2人	平均スタッフ数	2人
臨時休業等の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・10月～12月に2日間のみ開催となった。 ・例年実施している2校については令和2年度の開催を見送った。 		

教室紹介

教室名	竹とんぼを作ってみよう！	活動場所	黒浜南小図工室	
参加対象	3年生	参加者数	登録児童数	24人
			1日平均参加者数	24人
活動内容	創作活動			
連携団体	学校応援団			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・2日間にわたって開催し、24人の参加者があった。 ・昔の遊びを通して、子どもたちにとって有意義な遊びの場を提供することができ地域住民の皆さんとの交流を図ることができた。 			

吉川市(8校)

運営委員会名	吉川市放課後子ども教室事業運営委員会		
構成役職 (合計8名)	学童保育室関係者(1名)、放課後子ども教室関係者(1名)、社会教育団体構成員(1名)、PTA関係者(1名)、三輪野江小学校教頭(1名)、教育委員会職員(2名)、こども福祉部保育幼稚園課職員(1名)		
検討内容	1年間の活動内容について(実施プログラムの説明) 放課後子ども教室職員マニュアルについて 新型コロナウイルス感染症対策について 安全確保、保護者迎えの場所の確認について		
放課後子供教室 実施教室数	1教室	放課後児童クラブ 箇所数	8箇所
対象学区	1校区	一体型・連携型実施 教室数	一体型 1教室 連携型 0教室
主な対象学年	全学年	平均開催日数	18日
登録児童数	47人(令和2年1 月26日時点)	ボランティア数	4人
平均参加児童数	41人	平均スタッフ数	4人
コーディネーター数	1人		
臨時休業等の影響	新型コロナウイルスの影響により8月までの開催を見合わせた。新型コロナ対策と児童の熱中症対策の両立が難しいことから、暑さを和らぐ9月末より教室をスタートした。		

教室紹介

教室名	三輪野江小学校放課後子ども教室	活動場所	三輪野江小学校 ふれあいホール・校庭・体育館
参加対象	全学年	参加者数	登録児童数 47人 1日平均参加者数 42人
活動内容	タブレット端末を使った学習、ドッジボール教室、ハンドボール教室、木工教室、宿題		
連携団体	なし		
活動の成果	新型コロナウイルス感染症対策のため、参加児童およびスタッフにはマスクの着用、手洗いを徹底させている。使用した遊具や道具に関しては使いまわしをさせず、可能な限り一度スタッフが回収し、消毒をしている。また、今年度は児童の濃厚接触が避けられないプログラムは見送っており、社会情勢や地域的情勢を加味しつつ、実施可能なプログラムから随時実施している。		



【プログラミング教室】

端末にプログラムを入力し、ロボットを動かす



【木工教室】

プロの大工さんに指導を受け丸太をカット

松 伏 町 (3校)

運 営 委 員 会 名	金杉小学校放課後子ども教室		
構 成 役 職 (合 計 8 名)	校長1名、PTA会長1名、学校応援団1名、学童クラブ本部長1名、 放課後子ども教室指導員2名、教育文化振興課長1名、 コーディネーター1名		
検 討 内 容	・放課後子ども教室の状況、本年度の活動計画・活動状況、学童クラブ との連携、今後の計画、協議（意見交換）		
放 課 後 子 供 教 室 実 施 教 室 数	1教室	放 課 後 児 童 ク ラ ブ 箇 所 数	6箇所
対 象 学 校 区	1校区	一 体 型 ・ 連 携 型 実 施 教 室 数	一体型 1教室 連携型 0教室
主 な 対 象 学 年	全学年	平 均 開 催 日 数	57日
登 録 児 童 数	23人	ポ ラ ン テ ィ ア 数	15人
平 均 参 加 児 童 数	21人	平 均 ス タ ッ プ 数	10人
コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1人		
臨 時 休 業 等 の 影 響	学校の臨時休業が終わり6月1日から学校が再開された。子どもた ちの放課後の安心安全な活動場所を保证するため、指導員の協力を得 て6月8日から教室を開催した。スタッフは自身の健康管理に留意し 子どもたちに関わっている。		

教 室 紹 介

教 室 名	金杉小学校放課後子ども教室	活 動 場 所	金杉小学校
参 加 対 象	全学年	参 加 者 数	登録児童数 23人 1日平均参加者数 21人
活 動 内 容	宿題、英語活動、バケツ稲栽培、昔の遊び、カルタ、スナッグゴルフ、よさこい踊り、ドッジビー、木工教室		
連 携 団 体	学校応援団、よさこいソーランおどる遊、埼玉土建吉川松伏支部		
活 動 の 成 果	新型コロナウイルス感染症対策のため、教室のテーブルにビニールカーテンを自 作して設置した。非接触型体温計を準備し入室時に子どもの体温測定を毎回行っ ている。アルコールでの手指消毒及びマスク着用で感染防止を行っている。指導員も 同様に感染症対策を行っている。子どもたちは三密を理解し口に出しているため、 少し騒がしくなった時は、指導員が呼びかけると静かになり活動を行っている。体 育館などでの活動の際は整列時に広がって並び、密を避ける行動をとっている。		



【よさこいソーラン踊り団体との連携】
一体型の活動でよさこいソーラン踊りを体験



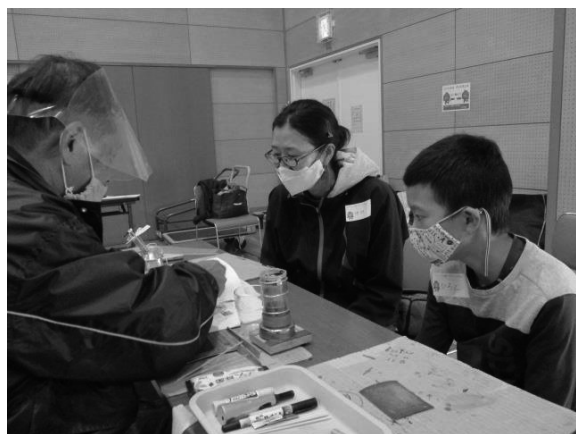
【学校応援団との連携】
一体型の活動でスナッグゴルフを体験

上尾市

実施教室数	6教室	対象学校	全小学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	2日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	11人
臨時休業等の影響	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための学校の臨時休校で8月まで開催をみあわせた。以降、随時講座開催に向け準備をすすめ、ソーシャルディスタンスの確保等感染対策を講じながら開催をした。		

教室紹介

教室名	上平公民館子ども教室	活動場所	上平公民館
参加対象	全学年	参加者数 (1日平均)	12人
活動内容	<p>「公民館で体験しよう」というテーマで、学校の先生以外の大人の指導者により様々な体験的学習を実施している</p> <p>① はじめての親子竹とんぼ教室 ② 親子で楽しむ寄せ植え教室</p>		
連携団体	<ul style="list-style-type: none"> ・上尾アブセック竹とんぼクラブ ・グリーンアドバイザー 		
活動の成果	<p>新型コロナウイルス感染症対策として、参加者、指導者はマスクの着用、検温を実施した。募集人数も密を防ぐために定員を減らしての募集とした。</p> <p>竹とんぼの講座は、地元の大人が講師となりより、親しみやすい講座となった。イベントが少ない中で、講座に参加でき楽しんでいた。また、親子で参加としたことから、親子で協力しながら制作している姿がみられた。</p>		



【はじめての親子竹とんぼ教室】
昔の遊びを体験しよう



【親子で楽しむ寄せ植え教室】
季節感のあるガーデニングを親子で体験

朝霞市

実施教室数	6教室	対象学校	6学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	12日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	55人
臨時休業等の影響	参加定数を例年の半数程度とした。		

教室紹介

教室名	おもしろ工作教室		活動場所	体育館会議室、アリーナ
参加対象	全学年		参加者数 (1日平均)	14人
活動内容	第1回	八重のかざぐるま ハサミの使い方		
	第2回	どんぐりゴマ 紙・竹とんぼ		
	第3回	メリーゴーランド くるくるタコさん、ヘビさん		
	第4回	ダンボールで、くつ職人		
	第5回	手作り手品		
	第6回	びっくりカメラ		
	第7回	ダンボールで、かばん職人		
	第8回	ゴム鉄砲 ペったんこ足ふみ		
	第9回	紙飛行機		
	第10回	いろいろなコマ		
	第11回	ホバークラフト		
	第12回	ふわっとドーム		
連携団体	NPO法人 朝霞ぐらんぱの会			
活動の成果	<p>NPO法人朝霞ぐらんぱの会に協力してもらい、工作指導をしてもらった。ぐらんぱの会の皆さんは、参加対象の小学生にとって祖父母世代の方々で構成されており、当事業が異世代交流の場にもなった。</p> <p>参加者は、ハサミをはじめ、様々な工作文具の正しい使い方を指導してもらうとともに、図工等で扱わないような珍しい工作を行うことで、回を追うに連れて工作意欲が高まっている様子だった。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、例年よりも参加定数を減らし、徹底した感染対策を行いながらの実施となったが、作品を持ち帰って家族と遊んだり、工作内容について話したりと、親子のふれ合いが増えたと、保護者から好評を得ることができた。</p>			



【ハサミの使い方】

色々な形に切れるようになりました



【ダンボールで、くつ職人】

ダンボールでオリジナルのくつを作りました

新 座 市

実施教室数	31教室	対象学校	17小学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	12日
コーディネーター数	7人	ボランティア数	138人
臨時休業等の影響	新型コロナウイルス感染症による市内小学校の休校の影響で、事業開始時期を6月から9月に遅らせた。		

教室紹介

教室名	プログラミング	活動場所	大和田小学校 PC室
参加対象	4～6年	参加者数 (1日平均)	10人
活動内容	<p>子ども向けのプログラミングソフト「scratch (スクラッチ)」を利用し、自分だけの作品作りを行う。</p> <p>1回目：オリエンテーリング／簡単なゲーム作り 2回目：封筒付きのカードメッセージの作成 3回目：自己紹介スライドの作成 4回目：シューティングゲームの作成 5回目：クイズの作成、クイズ大会①の開催 6回目：クイズの作成、クイズ大会②の開催 7回目：矢印キーを使った迷路ゲームの作成 8回目：動きと音を組み合わせた映像の作成 9回目：ボールキャッチゲームの作成 10回目：消しピン風おはじきゲームの作成 11回目：フラッピーバード風横スクロールゲームの作成</p>		
連携団体	特になし		
活動の成果	<p>子ども向けのプログラミングソフト「scratch (スクラッチ)」を利用し、実際にプログラミングをして自分だけの作品作りを行った。</p> <p>難しい言語やコードを覚えるのではなく、目的達成のための道筋を考え、アウトプットすることを目的とした。例えば、初回の「ネコから逃げろ！」ゲームの作成には、動くネコの設定、逃げる自分の設定等を行い、全員が違う方法で正解にたどり着いた。</p> <p>このように、それぞれのひらめきや発想力によって、正解のないことに取り組んだ。全員が初心者の状態だったが、分からない部分は子ども同士で協力する姿勢が見られるようになった。また、自分のアイデアが形になることで、喜びや達成感を感じることができたようだ。</p>		



【ソーシャルディスタンスを守って活動】
一人一台ずつのパソコン環境。



【こまめな個別指導が可能】
少人数のため、スタッフと一緒に考えて解決。

北本市

実施教室数	12教室	対象学校	全小・中学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	7日
コーディネーター数	12人	ボランティア数	230人
臨時休業等の影響	学校の臨時休業期間の影響により、例年より1カ月開催を見合わせ、6月以降の実施とした。		

教室紹介

教室名	小学校土曜補習事業（算数）	活動場所	教室
参加対象	3～6年	参加者数 （1日平均）	40人
活動内容	1回目	既習事項の復習、計算練習	
	2回目	既習事項の復習、計算練習	
	3回目	既習事項の復習、計算練習	
	4回目	既習事項の復習、計算練習	
	5回目	既習事項の復習、計算練習	
	《工夫した点》 ・高学年では、予め解答を用意しておき、課題を早く終えた児童が自主的に答え合わせをできるようにすることで、支援が必要な児童に対して重点的に支援することができるようにしている。自主的に答え合わせをした児童に対しても別に時間を設け、分からなかったことに対して助言できるようにしている。		
連携団体	特になし		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・九九や割り算の筆算など、発達段階に応じた基礎学力が確実に身に付いた。 ・臨時休業期間に学校において学習できず、基礎学力の補充のため個に応じた指導を行った。 ・学校で用意した学習プリントを多めに持ち帰って家庭での学習に活用する児童も見受けられ、学習への意欲付けにつながった。 ・考え方や解き方について、個に応じた指導を繰り返すことで、学習に前向きに取り組むようになった。 ・今後も参加する児童一人一人に対応した事前準備を行い、より効果的な活動にしていく必要がある。 		



【土曜補習の様子】（個別指導）



【土曜補習の様子】（全体指導）

東松山市

実施教室数	1教室	対象学校	小学校1校
主な対象学年	小学校3～6年	平均開催日数	9日
コーディネーター数	2人	ボランティア数	約15人
臨時休業等の影響	1学期中の開催は中止。 例年、全体で行っていたオリエンテーションの中止。 教室を1つ増やし、人数を分散。 例年、最終日に行っている成果発表会の検討。		

教室紹介

教室名	土曜日イングリッシュ寺子屋	活動場所	桜山小学校
参加対象	小学校3～6年	参加者数 (1日平均)	約40人
活動内容	<p>コーディネーターを中心に、当日の活動内容を確認し、ALT派遣会社が準備した教材を使って、レクやゲームを取り入れながら英語活動を行う。 地域のボランティアが、活動の支援をしたり、声をかけたりしながら楽しく活動している。</p> <p>【学習の流れ】</p> <p>9:30～10:15 英語活動① 10:15～10:30 休み時間 10:30～11:15 英語活動② 11:15～11:25 片づけ 11:25～11:30 連絡 11:30 終了</p>		
連携団体	株式会社ハートコーポレーション (ALT派遣会社)		
活動の成果	<p>○児童はボランティアと交流したり支援を受けたりしながら、楽しく英語活動を行っている。ALTのネイティブな発音に慣れ親しみ、英語をより身近に感じることで、英語への興味や関心が高まり、「話せるようになりたい。」「聞き取れるようになりたい。」との思いをもって参加している。</p> <p>○コーディネーターやボランティアの方と児童との信頼関係が深まり、児童が安心して活動できる環境が構築されている。</p> <p>○小・中一貫教育の重点の一つである「英語に強い子供を育てる」ことに大きく貢献している。</p> <p>○学習指導要領の全面实施に対応して、「聞く・話す(やり取り・発表)・読む・書く」の4技能5領域を体験することで、英語を楽しく学ぶ土台づくりの場となっている。</p>		



【英語を用いたゲーム指導】



【英会話をを用いた制作活動】

熊谷市

実施教室数	1教室	対象学校	全小・中学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	21日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	60人
臨時休業等の影響	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休業中及び緊急事態宣言発令中は、活動を中止とした。 ・バスを活用した自然観察会は中止とした。 ・科学展の中止に伴い、おもしろ実験教室を中止した。 ・1回の参加者を概ね親子10組程に絞って実施した。 		

教室紹介

教室名	ウィークエンドサイエンス	活動場所	熊谷市全域(学校・公民館等)
参加対象	全学年	参加者数 (1日平均)	10人
活動内容	第1回 別府沼公園の自然観察【中止】 第2回 和田吉野川の水辺環境と生き物調べ 第3回 第1回 科学展おもしろ実験教室【中止】 第4回 第2回 科学展おもしろ実験教室【中止】 第5回 見てみよう！魚のひみつ！（イワシ・イカの解剖） 第6回 赤城山の美しい自然を探る（自然観察）【中止】 第7回 第1回 サイエンスショー 第8回 第2回 サイエンスショー 第9回 空気を使って遊ぼう！ 第10回 野鳥の森で自然に触れよう！ 第11回 身近な自然の不思議 第12回 走れ！リニアモーターカー 第13回 進め！ポンポン船 第14回 第1回 超・冷たいでSHOW！～-196℃の世界へようこそ～（液体窒素） 第15回 第2回 超・冷たいでSHOW！～-196℃の世界へようこそ～（液体窒素） 第16回 西小水族館へようこそ！！（浮沈子）【中止】 第17回 筒の中に広がる不思議な世界（万華鏡）【中止】 第18回 静電気で遊ぼう！【中止】 第19回 鏡を使わない偏光万華鏡をつくろう【中止】 第20回 ザリガニロボットを作ってゲームをしよう【中止】 第21回 手作りカメラにチャレンジ！【中止】 第22回 高く飛び上がれ！目指すは宇宙！ペットボトルロケット【中止】 第23回 第1回 便利な生活のひみつ（プログラミング教室）【中止】 第24回 第2回 便利な生活のひみつ（プログラミング教室）【中止】		
連携団体	熊谷の環境を考える連絡協議会、埼玉県河川環境団体連絡協議会、平塚新田自治会 別府沼を考える会 等		
活動の成果	活動日からさかのぼり、14日以内に発熱等のかぜ症状が見られた場合、参加を見合わせていただいた。受付時に検温、消毒を実施し、室内での活動は換気をこまめに行った。対面に座るのは家族のみとし、他の家族とは距離を空けて座席を設置した。名札ケースなどの使い回しは避け、シール等で対応した。年末が近づき、新型コロナウイルスの感染者が増えてくると、受付にはビニールを設置した。普段は近づくことのできない川に住んでいる生き物や、植物の様子を観察することで、熊谷市の自然や生き物の生命の大切さを学ぶことができた。地元の方からカブトムシもプレゼントされ、参加者は大満足であった。液体窒素を使った実験には、親子で延べ300名を超える申込があった。バナナで釘を打ったり、風船やゴムボールを凍らせたりし、映像でしか見たことのないような実験を実際に体験することができた。		



【和田吉野川の水辺環境と生き物調べ】
フィールドワークを体験



【超・冷たいでSHOW！～-196℃の世界へようこそ～】
多数の児童・保護者が応募

深谷市

実施教室数	19教室	対象学校	19学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	17日
コーディネーター数	19人	ボランティア数	140人
臨時休業等の影響	<p>学校の臨時休校や新型コロナウイルスの影響で開催を見合わせ8月末から検温や消毒・換気など感染症対策を講じながら開催した。 また、2回目の緊急事態宣言に合わせて、令和3年1月～2月6日まで中止となった。</p>		

教室紹介

教室名	「がんばル〜ム」 (岡部小学校「がんばル〜ム」)	活動場所	図書室、空き教室
参加対象	全学年	参加者数 (1日平均)	35人
活動内容	<p>主に算数と国語を中心に市販のワークを使用し、「ちいきの先生」が個別学習の指導・相談を行っている。</p> <p>様々な学年の子供たちが一緒に学習を行い、子供同士でわからないところを教え合うなど、異学年交流の場ともなっている。</p> <p>「がんばル〜ム」の活性化に向け、勉強だけでなく運動も取り入れる目的で、市スポーツ推進委員による「軽スポーツ教室」を実施し、「ふっかちゃん体操」「ドッジビー」を教えてもらい、子どもたちは楽しみながら体を動かす。</p> <p>岡部小学校では、よく寝ることをモットーに図書室など3つの教室で9人の「ちいきの先生」が自主学習の支援を行っている。先生方が個別に勉強を見ることで、子供のペースに合った学習をすることができる。また、ハーフタイム(休憩時間)の自由遊びや運動を通して異世代・異年齢の交流を図っている。お楽しみ会では、ゲーム、紙しばいやクイズなど子供達が楽しめるよう工夫している。</p> <p>「ちいきの先生」は、子供と接するのが好きな方や、教育または学習塾等で子供を教えた経験が豊富な方等から一般公募し、教育委員会の面接を経て、登録を行っている。</p>		
連携団体	スポーツ推進員		
活動の成果	<p>完全学校週5日制が定着し、子供たちの休日の過ごし方は多様となり、より充実したものとなっている。本事業は、子供たちが有意義な土曜日を過ごすための一つの選択肢として、大変重要である。</p> <p>子供たちへのアンケートでは、「勉強やハーフタイム、お友達や先生と話すことが楽しかった」「来年度も参加したい」との回答が多く見られ、とても好評であった。</p> <p>勉強以外にも楽しめるプログラムを取り入れながら、学校・家庭と一層連携し、充実した「がんばル〜ム」へとつなげたい。</p>		



【密を避けて学習】



【フェイスシールドをつけて実施】

寄居町

実施教室数	1教室	対象学校	6校
主な対象学年	6年	平均開催日数	25日
コーディネーター数	1人	ボランティア数	4人
臨時休業等の影響	学校の臨時休業や新型コロナウイルスの影響で7月下旬まで開催を見合わせた。年度当初小学校5・6年生対象であったが、密を避けるため6年生のみとし人数を制限して実施した。検温や換気など感染症対策を講じながら開催した。		

教室紹介

教室名	より・E小学生英語塾	活動場所	寄居町役場
参加対象	6年生	参加者数 (1日平均)	65人
活動内容	寄居町立各小・中学校にALTを派遣している業者に業務を委託して実施している。 ○7月下旬から2月下旬まで、原則土曜日に全25回実施。 ○町内6校の6年生を対象に、英語を使ったコミュニケーション(英会話)の授業を45分間行う。授業は日本人講師と外国人講師で行い、すべて英語でコミュニケーションをとる。やり取りの活動の際にはフェイスマスクを使用した。 ○感染防止策として、マスクの着用、大会議室の使用及び換気、密を防ぐための間隔をとった座席、換気受付時の検温、消毒の徹底の上で事業を行った。 ○7月から9月までの3か月間で、自分のことについて英語で話せるようにする。10・11月の2か月間で、日本や世界各国について英語で紹介できるようにする。12月には、「読むこと」と「書くこと」の活動を行う。1・2月には、今までの復習を兼ねて、自分で課題を決め、英語で発表会を行う。		
連携団体	(株)RCSコーポレーション		
活動の成果	○授業はすべて英語で行われる。たくさんの英語を聞かせることで、うなずいたり、身振りや手振りなどを使ったりと、コミュニケーションがとれるようになった。 ○ペア学習、グループ学習をたくさん取り入れ、英語を使う状況設定から、積極的に英語を使うようになった。 ○中学校に進学しても、英語が楽しみだという児童からの声が聞かれた。 ○町内6校の児童が集まり同じ場所で学ぶことで、友達関係が広がり、円滑な人間関係を構築することができた。 ○自分のことや周りのことについて英語で表現できるようになった。		



【工夫したグループワーク】

既習表現をカードで確認している様子。英文のヒントを元に適したカードを取る。取るだけでなく、全員で発音の練習を行う。



【発表会】

自分のお気に入りのことについて5文程度の英語で発表し合い、学んでいる様子。ALTからその場で評価をもらい自信にもつながる。

三郷市

実施教室数	6教室	対象学校	全小・中学校
主な対象学年	全学年	平均開催日数	95日
コーディネーター数	2人	ボランティア数	0人
臨時休業等の影響	学校の臨時休業や新型コロナウイルスの影響で6月までの第1期開催を見合わせた。7月から検温や換気など感染症対策を講じながら開催した。緊急事態宣言再度発令のため、1月から再び休室となった。		

教室紹介

教室名	おもしろ理科実験教室		活動場所	おもしろ遊学館 理科室
参加対象	小学校1～6年		参加者数 (1日平均)	定員18人
活動内容	第2期 7月～8月	浮沈子をつくろう ※水中を自由に動くおもちゃづくりを行う。		
		色や光のひみつを探ろう ※色や光を分ける実験を行う。		
		不思議発見！音の秘密 ※手で音を感じてみたり、声を出すと動くモールや楽器を作ったりする。		
	第3期 9月 ～12月	だまし絵の世界 ※だまし絵を使って、不思議な錯覚の世界を科学する。		
チリモンをさがそう ※チリメンジャコからみえる海の世界を探検する				
連携団体	埼玉大学附属小学校 等			
活動の成果	新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者やスタッフのマスクの着用や検温、換気、スクリーンの設置、フェイスシールドの着用などを行った。 理科実験に長けている埼玉大学附属小学校の教諭や、元校長、元教頭に協力してもらい、実験教室を開催した。手に入りやすい道具を使った実験は、とても効果的で、小学生はより関心を持って取り組んでいた。また、「家でもう一度やってみよう」など、身近な科学に興味を持つようになった。			



【浮沈子をつくろう】

水中を自由に動く浮沈子を作成し、実際に動かして実験する。



【チリモンをさがそう】

ちりめんじゃこの中から見つけた生き物を図鑑と比べて、海の中の小さな生き物に親しむ。

越 生 町

活 動 名

越生町中学生学力アップ教室

中 学 校 数	1校	実 施 教 室 数	1教室
対 象 学 校 数	1校	対 象 学 年	全学年
平 均 年 間 開 催 日 数	6日	参 加 人 数 (1日平均)	44人
活 動 場 所	中学校教室	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	2人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	教育委員会職員
臨 時 休 業 等 の 影 響	新型コロナウイルスの影響で、夏休み期間に18日間夏季授業を行ったため、予定していた夏季補充学習の時間を確保することができなかった。		

活 動 紹 介

活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●越生中学校全学年を対象とし、定期テスト前に補充学習の時間を設け、学習支援を実施した。 ●学習内容は、主に教科書を中心とし、コバトン問題集や復習シートも教材として活用し、個々の課題に合わせて指導を進めた。
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎学力定着コースと活用力向上コースに分かれて指導を行った。基礎学力定着コースでは、漢字や英単語の書き取り、計算問題等を中心に繰り返し行った。活用力向上コースでは、コバトン問題集の活用や、3年生は高校入試の問題に取り組むなど、応用力の向上を目指した。
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症対策のため、参加生徒には、毎朝の検温とマスクの着用を徹底した。また、指導教室に手指消毒用のアルコールを設置し、入室前に必ず手指消毒を行った。支援員もマスクの着用を徹底し、教室換気のため、窓の開放とサーキュレーターの使用、終了後は教室の消毒作業を行うなど感染症対策を行った。 ●定期テスト前に補充学習を行うことで、途切れがちな学習習慣がつながり、基礎学力の定着に役立っている。また、定期テストで今までできなかった問題ができるようになるなど、結果に結びつき、生徒の学習に対する意欲が増している。 ●参加した生徒の感想 「繰り返し問題を解くことで、その問題傾向に慣れることができた。」 「コバトン問題集には普段の授業に近い問題から、難しい問題まであるので、さまざまな問題に挑戦できて良かった。」



【補充学習の様子】

分野別に丁寧な解説を行い、基礎学力の定着を図った。



【補充学習（グループ学習）の様子】

グループごとに生徒同士で教え合う時間を設け、生徒の理解度を確認しながら、支援員が指導した。

熊谷市

活動名	学習支援充実くまなびスクール
-----	----------------

中学校数	16校	実施教室数	16教室
対象学校数	16校	対象学年	全学年
平均年間開催日数	24日	参加人数(1日平均)	316人
活動場所	各中学校教室	コーディネーター数	16人
ボランティア数	56人	ボランティアの属性	教員OB、教員免許状所有者、学生
臨時休業等の影響	学校の臨時休業や新型コロナウイルスの影響で6月まで実施を見合わせた。7月から、新型コロナウイルス感染症対策等が整ったことから教室を再開した。新型コロナウイルス感染への不安から参加生徒が減少するかと思われたが、昨年度よりも増加している。臨時休業中の学習への不安から参加者が増えたものとする。		

活動紹介

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ●教員OBや教員免許状所有者、学生等の有償ボランティアによる、生徒一人一人に対するきめ細かな指導をとおして、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図った。 ●市内全ての中学生に参加を呼びかけ、参加を希望した生徒を対象に、市内の中学校(16校)を会場に年間30回以内で週1回程度(1回2時間)実施した。 ●学習形態は国語、数学、英語を中心とした自学自習形式で、一部講義形式も取り入れた。
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●会場は各中学校とし、実施日については各中学校が設定した。このことにより、学校の実情に応じた運営ができた。 ●臨時休業中の児童生徒の学習保障に向け、熊谷市教育委員会で開設した10分程度の学習動画を配信する「Web版くまなびスクール」を学習教材として活用した。 ●市内の全生徒に配付してある「熊谷市学力向上テキスト」(熊谷市教育委員会作成)を教材として活用した。
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症対策として、入室前の手指消毒、開始前の健康観察、マスクの着用、換気、ソーシャルディスタンスの確保を徹底した。 ●経済的な理由等の限定をかけずに、市内全ての中学生に参加を呼びかけたため、学習の機会を保障し、個に応じたきめ細かな指導を行うことができ、市内の中学生全体の学力の底上げにつながった。県学力・学習状況調査の結果も良好であり、特に、参加生徒が多い学校の結果が良好である。 ●埼玉県学力・学習状況調査生徒質問紙調査「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、「2時間以上」と回答した生徒が、県平均より中学校2年生で4.8ポイント、中学校3年生で6.9ポイント高い。また、「学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対しても「1時間以上」と回答した生徒が、県平均より中学校2年生で5.5ポイント、中学校3年生で4.2ポイント高い。くまなびスクールにより、家庭学習の習慣が着実に定着してきている。

第5「放課後・子供教室推進事業」の実践事例(実施市町の取組)



【Web版くまなびスクール】
臨時休業中の児童生徒の学習保障に向け開設した10分程度の学習動画を配信する「Web版くまなびスクール」を学習教材として活用した。



【市で独自に作成した学力向上テキスト】
授業の予習・復習や3年間の学習内容の振り返りなど生徒の自学・自習に活用できるように市で作成した。

深谷市

活動名

ステップアップレッスン

中学校数	10校	実施教室数	10教室
対象学校数	10校	対象学年	全学年
平均年間開催日数	90日	参加人数(1日平均)	180人
活動場所	各中学校教室	コーディネーター数	10人
ボランティア数	10人	ボランティアの属性	元教員
臨時休業等の影響	学校の臨時休業や新型コロナウイルスの影響で5月まで実施を見合わせた。6月から、新型コロナウイルス感染症対策等が整ったことから教室を再開した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、教育活動サポーターの確保が難しかった。		

活動紹介

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ●学習に対して不安を持っている生徒や、学習する時間を増やそうとしている生徒に、学習できる場・環境を提供し、基礎的・基本的学習内容を補習し、生徒の学力と学習の質を向上させるために実施した。 ●週に2回、学校の実態に応じ曜日や時間を設定して実施した。また、月に2回を基本として土曜日および夏休み、冬休み等の長期休業中も実施した。 ●学校によっては、対象学年や学習内容を工夫して複数のステップアップレッスンを準備し、実施した。 ●各コーディネーターは普段の学校の授業に支援という形で参加し、各学年の学習内容や参加者の教室での実態を把握するとともに、担当教師と打ち合わせを密に行うなどして、レッスンでの指導方法を検討した。
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●国語・数学・英語・社会・理科のプリントボックスを設置し、生徒が自分の実態に合わせて、家庭学習等でプリントを活用できるようにした。ステップアップレッスンでもプリントボックスの課題を活用して指導にあたった。 ●小規模の学校では、生徒一人一人の実態が把握しやすく、個別指導・支援がしやすいため、1対1で対応し生徒が分かるまで学ぶ環境を整え、実践した。 ●学習内容や教材資料については、学校教員と学習支援員で打ち合わせを行い、ステップアップレッスンでの自作の問題やコバトン問題集、復習シートを活用し、基礎基本の定着に努めた。
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> ●活動時には、マスクの着用、小声での活動・支援・指導を徹底した。密集を避けるために、生徒同士のソーシャルディスタンスを保ち、机の配置等を考慮して実施した。 ●埼玉県学力・学習状況調査の生徒質問紙調査「学校の授業の予習や復習をしていますか」という質問に対して、「している」「どちらかといえばしている」と回答した生徒が、県平均より1年生では7.2ポイント、2年生では8.8ポイント、3年生では11.3ポイント高い。また、「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、「1時間以上」と回答した生徒が、県平均より1年生では6.9ポイント、2年生では7.8ポイント、3年生では4.1ポイント高く、生徒が意欲的に学び、家庭学習も定着してきた。 ●ステップアップレッスンを通じて、一人一人の基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上が成果として現れている。



【ステップアップレッスンの様子】

3年生を対象に入試対策を実施。本年度は密を避けるため、机の配置等を考慮した。

長 瀬 町

活 動 名

チャレンジ土曜セミナー

中 学 校 数	1 校	実 施 教 室 数	1 教室
対 象 学 校 数	1 校	対 象 学 年	3 学年
平均年間開催日数	15 日	参加人数（1日平均）	10 人
活 動 場 所	中央公民館	コーディネーター数	1 人
ボランティア数	2 人	ボランティアの属性	塾講師
臨時休業等の影響	新型コロナウイルス感染症や台風の影響により、10月中旬からの開室となった。開室にあたっては、机の間隔を十分に確保する等の感染症対策を講じ、3密を回避するよう環境を整えた上で実施した。		

活 動 紹 介

活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●対 象 長瀬中学校に在籍する中学校3年生のうち、学習に苦手意識のある生徒 ●実施日時と回数 10月から2月までの土曜日に15回、各回2時間程度実施 ●内 容 高校入試を目指した基礎問題(数学・英語) ●指導者 学習塾講師1人、講師補助1人
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●開室場所は、生徒が自力で通室できる中学校近くの中央公民館とした。 ●全体指導で基礎的な内容の確認を行い、指導者2名が机間指導を行うことで、個別に質問できる時間を設けた。 ●指導者は、休憩中に生徒と簡単な英語でのコミュニケーションをとるなど、学習時間以外においても積極的に交流を図った。 ●指導者は、高校入試に向けての心構えや反復学習の重要性を指導し、学習への意識改善を図った。
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症対策のため、参加生徒には、自宅での検温を指示し、マスクの着用及び手指の消毒を実施した。活動時は、机の配置を工夫し身体的距離を確保するとともに換気を徹底した。 ●学習に苦手意識のある生徒を対象としていたが、回が進むにつれ生徒が手を挙げて質問するなど、学習意欲の向上がみられた。 ●全体指導で自己の課題を発見し、個別指導で解決に向けた支援を行う事で、一人一人の基礎的な内容の理解を深めることができた。 ●基礎問題を重点的に学ぶことで、自力で解答を導き出す達成感を体験し、学習への苦手意識を払拭するきっかけづくりとすることができた。 ●参加生徒の感想より <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎がすごく大事ということが分かりました。」 ・「教え方がとても分かりやすかったので、問題もスラスラ解けた。」 ●保護者の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・「『教えてもらって分かった。』と話していたのでよかったです。」



【全体指導の様子】

単元の復習を通し、基礎的な内容についての自己の理解度を確認する。



【講師2人による個別指導】

指導者が個別に質問を受け、自力で解決するための支援を行う。

小鹿野町

活 動 名

中学生未来塾

中 学 校 数	1校	実 施 教 室 数	各教科2教室 計6教室
対 象 学 校 数	1校	対 象 学 年	1～3学年
平均年間開催日数	12日	参加人数(1日平均)	70人
活 動 場 所	小鹿野文化センター	コーディネーター数	1人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	11人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	塾講師、教員OB
臨時休業等の影響	学校の臨時休業や新型コロナウイルスの影響で7月まで実施を見合わせた。当初の計画では計15回の実施予定だったが、12回に減らしての実施となった。		

活 動 紹 介

活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●中学校全学年を対象とし、第2、第4土曜日の午前中に、民間の塾講師や教員OBにより、英語、国語、数学の学習講座を実施。 ●少人数制によるきめ細やかな学習指導を行う。
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●英語、国語、数学それぞれ①基礎・基本コース②応用・発展コースの各教科2コース、計6コースで実施。生徒の個々の学習進度に合わせて、少人数できめ細やかな指導を行っている。(習熟度別指導) ●民間の塾講師や教員OBに協力をいただき、地域と一体となった教育活動の支援を行っている。 ●遠距離の生徒も参加できるよう、開催日にはスクールバスを運行し送迎している。
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症対策のため、受講生には検温、マスクの着用、手指のアルコール消毒を実施した。講師及び学習支援員も検温、フェイスシールド又はマスクの着用、手指のアルコール消毒を徹底した。会場は換気を行いながら使用し、講座終了後は使用した机及び椅子は全てアルコール消毒を行った。 ●生徒の個々の学習進度に合わせて、少人数できめ細やかな指導を行い、基礎的な学力や学習意欲を高めることができた。 ●受講生の約70%の生徒が英語検定、漢字検定を受験し、検定挑戦への意欲の高まりが見られた。 ●この事業をととして、生徒の学習習慣の確立に向けて地域全体で支援するきっかけづくりになっている。



【1年生数学教室の様子】

初受講の1年生全員参加でスタートしました。コロナ対策として、講師はフェイスシールド、受講生は全員マスクを着用しております。



【3年生英語教室の様子】

学習支援員に協力いただき、少人数制のきめ細やかな指導を行っています。

神川町

活動名	中学生学力アップ教室
-----	------------

中学校数	1校	実施教室数	1教室
対象学校数	1校	対象学年	3学年
平均年間開催日数	40日	参加人数(1日平均)	30人
活動場所	公民館	コーディネーター数	2人
ボランティア数	5人	ボランティアの属性	元教員、大学生
臨時休業等の影響	9月からの実施とした。2回目の新型コロナウイルス感染拡大予防のための緊急事態宣言の影響で1月から2月の宣言期間中の実施を見合わせた。活動場所を増やすことで密を防いだが、各活動場所に対応する学習支援員の確保が課題となった。		

活動紹介

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ●市内全中学校3年生を対象とし、9月から2月にかけて、週2回、18時半から20時までの1時間半程度、国語、数学、英語を中心に各自が用意した問題集等を使った学習支援を実施。
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●事前に対象生徒一人一人に対して重点を置いて学習したい教科のアンケートをとり、学習を支援するボランティアとのグルーピングを行い、より良い支援ができるようにした。
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症対策のため、参加生徒には検温やマスクの着用をお願いした。学習支援員には、さらに、毎日の検温や行動記録等を記入できる健康把握表を配布し、協力を仰ぎ、健康管理を徹底した。密集を避けるために複数の会場を準備し、長机に基本的には一人、多くても二人までの着席とし、生徒同士のソーシャルディスタンスを保って実施した。 ●本事業に参加して、家庭での学習時間が長くなったという保護者からの声が教育委員会へ寄せられた。



【教育長による特別英語レッスンの様子】
全体会場とは別に、教育長自ら、ホワイトボードを利用し、文法の基礎を指導した。生徒から分かりやすいと大好評である。



【集中して学習に取り組む様子】
各自のペースに合わせて分からないところは丁寧に分かるまで説明し、生徒のやる気をアップさせている。

上里町

活 動 名	上里町中学生学力アップ教室
-------	---------------

中 学 校 数	2校	実 施 教 室 数	2教室
対 象 学 校 数	2校	対 象 学 年	3学年
平 均 年 間 開 催 日 数	62日	参 加 人 数 (1日平均)	30人
活 動 場 所	上里町中央公民館	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	12人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	教員OB、大学生
臨 時 休 業 等 の 影 響	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場の中央公民館が7月中使用できなかった。そのため、中央公民館が使用できるようになるまで、上里町役場大会議室に会場を変更して実施した。		

活 動 紹 介

活 動 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●町内中学校3年生を対象とし、7月から2月にかけて、週2回(テスト前には週3回)、放課後の2時間程度、上里町中央公民館で5教科を中心とした学習支援を実施。 ●町内には中学校が2校あることから、中学校ごとに行っている。 ●学習する教科・内容に関しては、生徒が5教科の中からその日に行うものを自身で決め、教材を持参する。学校の宿題及び学校での学習に関する予習や復習を行い、分からないところについては、学習支援員に質問していく。
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度は部活動の大会がなかったため、例年よりも教室開始日を早め、7月中旬から開始した。 ●開催場所を、町の中央に位置する中央公民館にして、生徒が通いやすくした。 ●事前に参加する保護者のメールアドレスを登録し、緊急時等の連絡として活用した。 ●毎回教室を開催する前に学習支援員打合せ会を実施し、生徒の様子や指導方法の確認等を行った。 ●「自力で家庭学習に取り組める力を育てる」をベースとして、自力解決をしながら、分からないところを聞ける態度を養う中で、学習の仕方を学ばせ、「これが分かった」と実感できるような支援を行った。 ●教科の時間割は設けず、5教科のうち、各自が勉強したい教科を持参させて個に対応した支援を行った。
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> ●感染対策のため、座席を一つずつ空けて座ったり、支援員は生徒と対面にならないように横に座って支援したりした。また、机やイスは使用後に消毒を行った。 ●本年度で「上里町中学生学力アップ教室」6年目となり、生徒・保護者の事業への認知度と有効性の認識が高まってきている。 ●上里町で取り組んでいる「学び合い学習」を基本に、学力アップ教室でも分からないところは互いに聞き合い、主体的に学習を進める力がついている。 ●保護者アンケートから、学力アップ教室に参加した生徒の約8割が学習への意欲が高まったと答えている。また、約9割の生徒が家庭学習の取組に良い変化が見られたと答えていることから、事業の効果がみられる。 ●今後は、保護者アンケート結果や学力アップ教室の課題を詳細に分析し、「学力」「学習意欲」がさらに向上するよう改善していく。



【学習の様子】
生徒の質問に対して学習支援員が丁寧に解説することで自力解決への意欲を高めている。



【間隔を広く開けて】
感染対策のため、全員マスクをつけ、座席の間隔を広く開けて実施している。

寄居町

活動名

より・E土曜塾

中学校数	3校	実施教室数	1教室
対象学校数	3校	対象学年	2・3学年
平均年間開催日数	30日	参加人数(1日平均)	80人
活動場所	寄居町役場	コーディネーター数	2人
ボランティア数	12人	ボランティアの属性	塾講師
臨時休業等の影響	例年4月に春塾、5月に定期テスト対策を行っていたが、本年度は7月下旬開講の進路対策講座からスタートした。また、募集人数が増加したため会場数を増やし密を避け、感染防止対策のもと行った。		

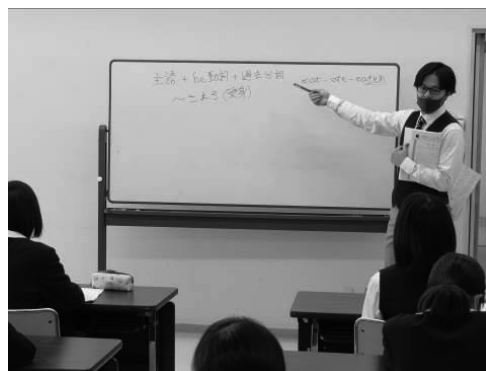
活動紹介

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)トライグループに業務を委託して、「より・E土曜塾」を実施した。 ●「進路対策講座」を7月から2月に30回実施した。 ●中学校3年生を対象とし、土曜日または日曜日に週1回、国語、数学、英語各50分ずつの授業を行った。 ●習熟度別の少人数グループ(2〜6人)に講師1人を配置し、きめ細かい個別指導を行った。 ●生徒・保護者対象の受験対策セミナーや個人面談を行い、受験対策への助言や相談を行った。 ●「英検対策講座」として、中学校2・3年生を対象に、1回50分の英検対策の授業を5回ずつ計10回実施した。
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●高校入試対策として「進路対策講座」、公費英検受験にあわせ、「中学3年生英検対策講座」、「中学2年生英検対策講座」の3回に分けて生徒を募集した。「進路対策講座」は3年生の部活動が終わり、受験に向けて意識が高まってくる夏季休業中から開始することで、より多くの生徒が参加できるようにした。 ●家庭でも委託業者が提供しているWebサイトを活用し学習できるようにした。 ●受験対策セミナーや個人面談を通して高校受験対策の助言をしたり相談に応じたりし、生徒が高校入試に向け、自分に合った勉強方法を身に付けることができるようにした。 ●「英検対策講座」を「より・E土曜塾」と同日開催し、英検に多くの生徒が合格できるようにした。
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> ●感染防止対策として、講師のフェイスシールド着用、消毒、体温チェック、密にならないよう午前午後受講者を分散し、受講者への感染防止策のもと学力の向上を図った。 ●習熟度別の少人数グループにより実態にあった授業が展開されているので、「分かった。できるようになった。」という声が生徒たちから多く聞かれた。 ●回を重ねるごとに生徒と講師との人間関係も構築され、生徒が気軽に質問をし、自分の苦手な部分を克服している姿が見られた。 ●7月、10月、1月に3回テストを行い、学力の伸びを確認することができた。1月は入試直前テストとした。 ●英検対策講座に多くの生徒が参加し、英検の受験者数が増え、特に英検準2級以上への受験者が増加した。



【「進路対策講座」の学習の様子】

少人数グループでのきめ細かい個別指導を行い、生徒の理解を深め、学習意欲の向上につなげている。



【「英検対策講座」の学習の様子】

受験する級ごとにグループを分けて英検対策の授業を行い、英検合格をめざして学習している。

久喜市

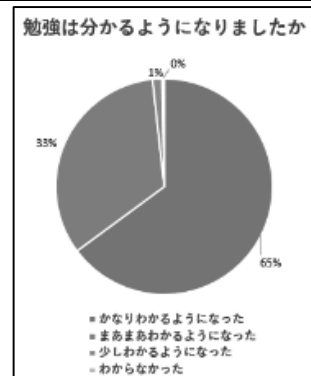
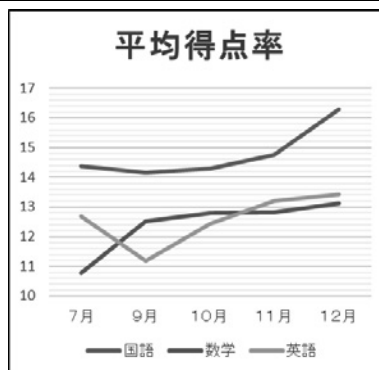
活動名

くき本樹塾

中学校数	11校	実施教室数	11教室
対象学校数	11校	対象学年	全学年
平均年間開催日数	30日	参加人数(1日平均)	230人
活動場所	各中学校教室	コーディネーター数	10人
ボランティア数	44人	ボランティアの属性	教員OB、教員免許保有者、大学生
臨時休業等の影響	例年6月からの実施であったが、本年度は臨時休業等のため開始が2学期スタートの週(8月17日～)となり2か月遅れての実施となった。そのため、年間30回という回数を設定することが難しい学校があった。		

活動紹介

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ●市内の全中学校を対象とし、8月中旬から2月にかけて、週1回、2時間程度を目安に、各中学校の教室で国語・社会・数学・理科・英語の問題集やコーディネーターの自作ワークシート等を活用し、個別の学習支援を実施した。 ●自主学習を主な活動にしているが、生徒の様子によって、コーディネーターの判断で一斉指導等も実施した。
実施にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ●各学校に専属のコーディネーターと指導員を配置したことで、支援員と生徒、学校と支援員、支援員同士の信頼関係が構築された。これにより支援員が生徒一人一人の実態に合った学習支援を行えるとともに、学校と情報共有が積極的に図られ、中間・期末テストの範囲を把握した上で効果的な支援に当たることができた。 ●実施する曜日や時間を学校ごとに固定したことで定期的な開催となり、生徒の学習習慣の定着が図られた。 ●一部の学校では、くき本樹塾に教員が参加し、学習支援員をサポートする取組を実施した。この取組を通じて、生徒への支援が充実するとともに、教員にとっては本樹塾の活動状況や生徒の様子を把握することができ、日頃の授業での指導等につなげることができた。
事業を実施しての成果	<ul style="list-style-type: none"> ●埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの変容を学力の伸びと捉えたと仮定したとき、埼玉県学力・学習状況調査と同様の性質を持ち、7月～12月まで毎月実施している久喜市独自の学力調査「久喜市ステップアップテスト」の結果から、本事業参加生徒の国語・数学・英語の3教科の平均得点率は、7月より1.6ポイント上昇した。 ●参加生徒の意識調査から、本事業に参加したことで、学習内容を理解することができたと回答した生徒の割合が98%という結果であった。 ●参加生徒の感想として以下のようなものがあった。 <ul style="list-style-type: none"> ・「今日は、先生にアドバイスをもらってできるようになったことがあったので良かったです。」 ・「分かりやすく教えてくれたのでうれしかったです。計算(数学)が好きになりました。」 ・「英文を訳すのが難しかったけれど、手伝ってもらってできたのでよかったです。」



【学習の様子】

学習支援員によるきめ細やかな個別指導により、分かる喜びを味わい、学習意欲や学力の向上に繋がっている。

【市独自の学力調査における変容】

7月から12月にかけて、参加者の学力が徐々に高まっていることが分かる。

【参加生徒意識調査】

98%の生徒たちが、「分かるようになった」と回答している。